

2024年3月期第2四半期

決算説明資料

扶桑化学工業株式会社

2023年11月14日

東証プライム (4368)



I. 2024年3月期第2四半期 決算概要

II. 事業の概況

- ライフサイエンス事業
- 電子材料および機能性化学品事業

III. 2024年3月期 業績予想

IV. 質疑応答



【出席者】

代表取締役社長	杉田 真一
上席執行役員 管理本部長	伊藤 裕之

I. 2024年3月期第2四半期 決算概要

2024年3月期 第2四半期 決算概要



(単位：億円)	当期実績	前年同期比			期初計画比			修正計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	増減額	増減率	公表計画	増減額	増減率
売上高	271.3	353.5	△82.2	△23.3% ↓	336.0	△64.6	△19.2%	274.0	△2.6	△1.0%
営業利益	55.8	95.7	△39.9	△41.7% ↓	71.0	△15.1	△21.4%	55.0	+0.8	+1.5%
経常利益	62.4	107.5	△45.1	△41.9% ↓	71.0	△8.5	△12.0%	60.5	+1.9	+3.2%
当期純利益	42.8	75.1	△32.2	△43.0% ↓	48.5	△5.6	△11.6%	41.0	+1.8	+4.6%
償却前営業利益	83.6	116.2	△32.5	△28.0% ↓	101.5	△17.8	△17.6%	82.5	+1.1	+1.4%
1株当たり 当期純利益	121.6円	213.2円	△91.6円	△43.0% ↓	137.6円	△15.9円	△11.6%	116.3円	+5.3	+4.6%

セグメント別売上高・営業利益 【前期比】



(単位：億円)

当期実績

前年同期比

前期実績

増減額

増減率

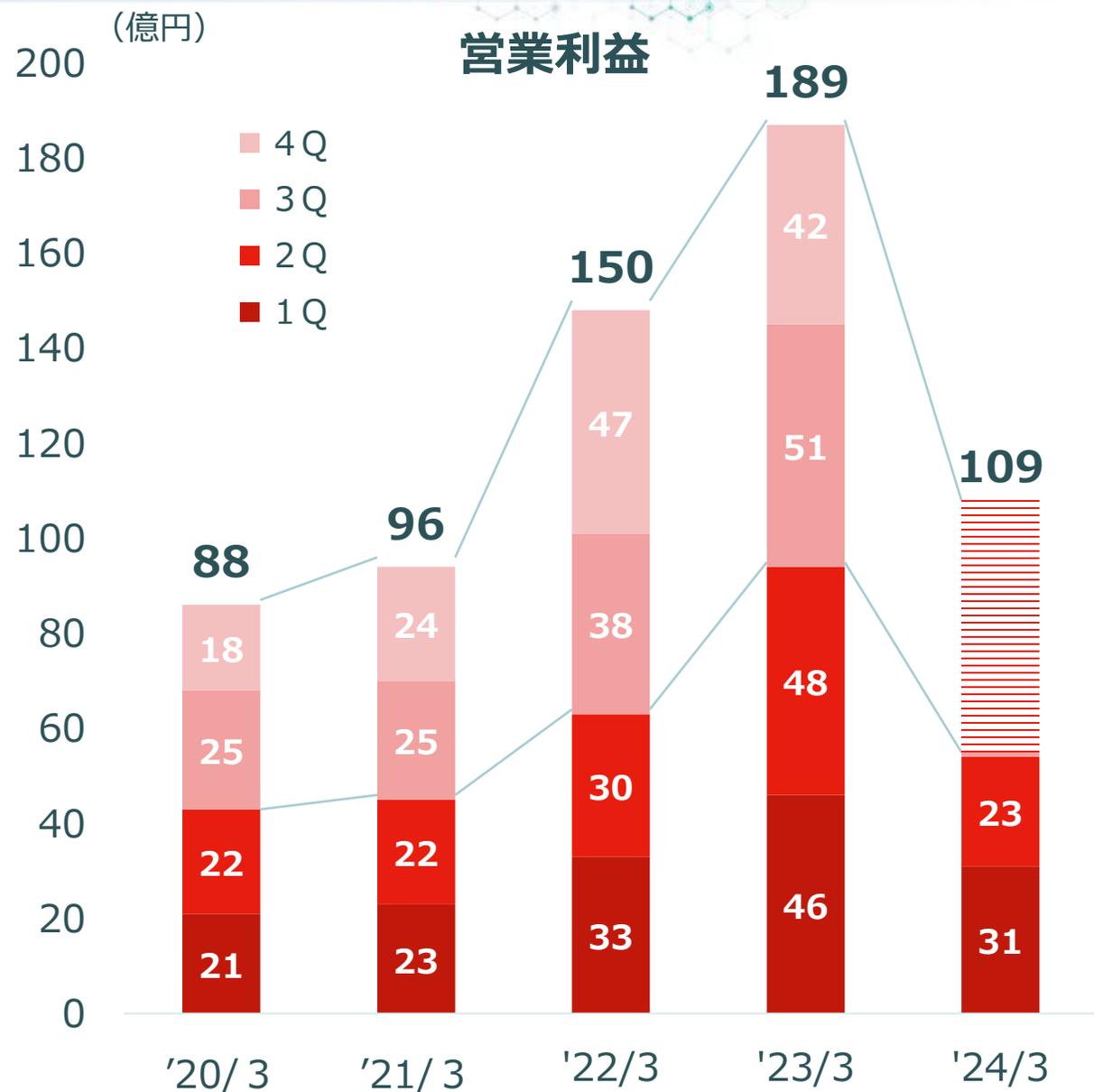
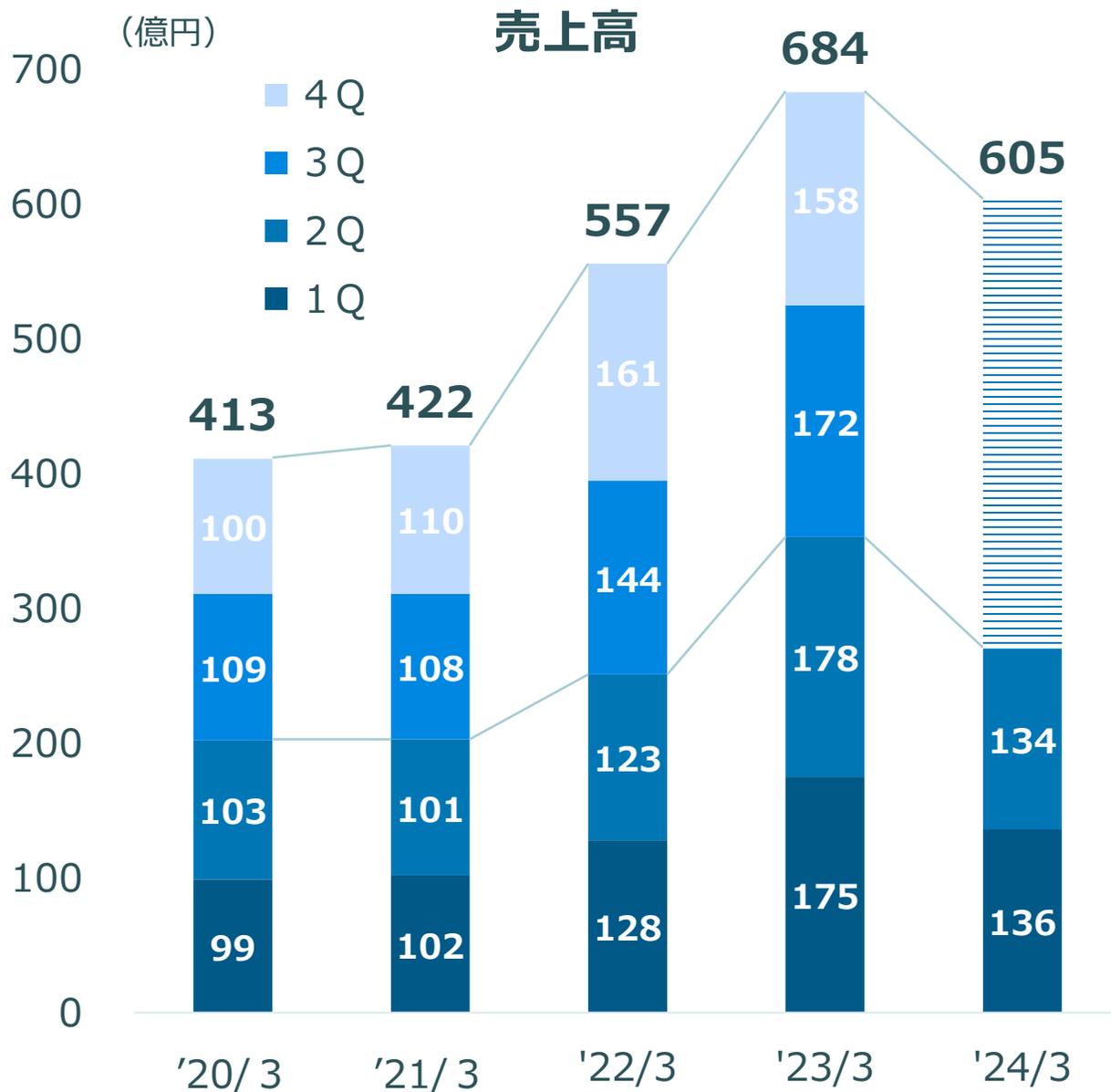
■ ライフサイエンス事業	売上高	169.7	193.7	△23.9	△12.4% ↓
	営業利益	32.7	33.4	△0.7	△2.1% ↓
■ 電子材料および 機能性化学品事業	売上高	101.5	159.8	△58.2	△36.4% ↓
	営業利益	33.3	71.4	△38.1	△53.4% ↓
(調整額)		△ 10.2	△9.1	△1.0	—
営業利益 (全社)		55.8	95.7	△39.9	△41.7% ↓

2024年3月期 四半期別業績

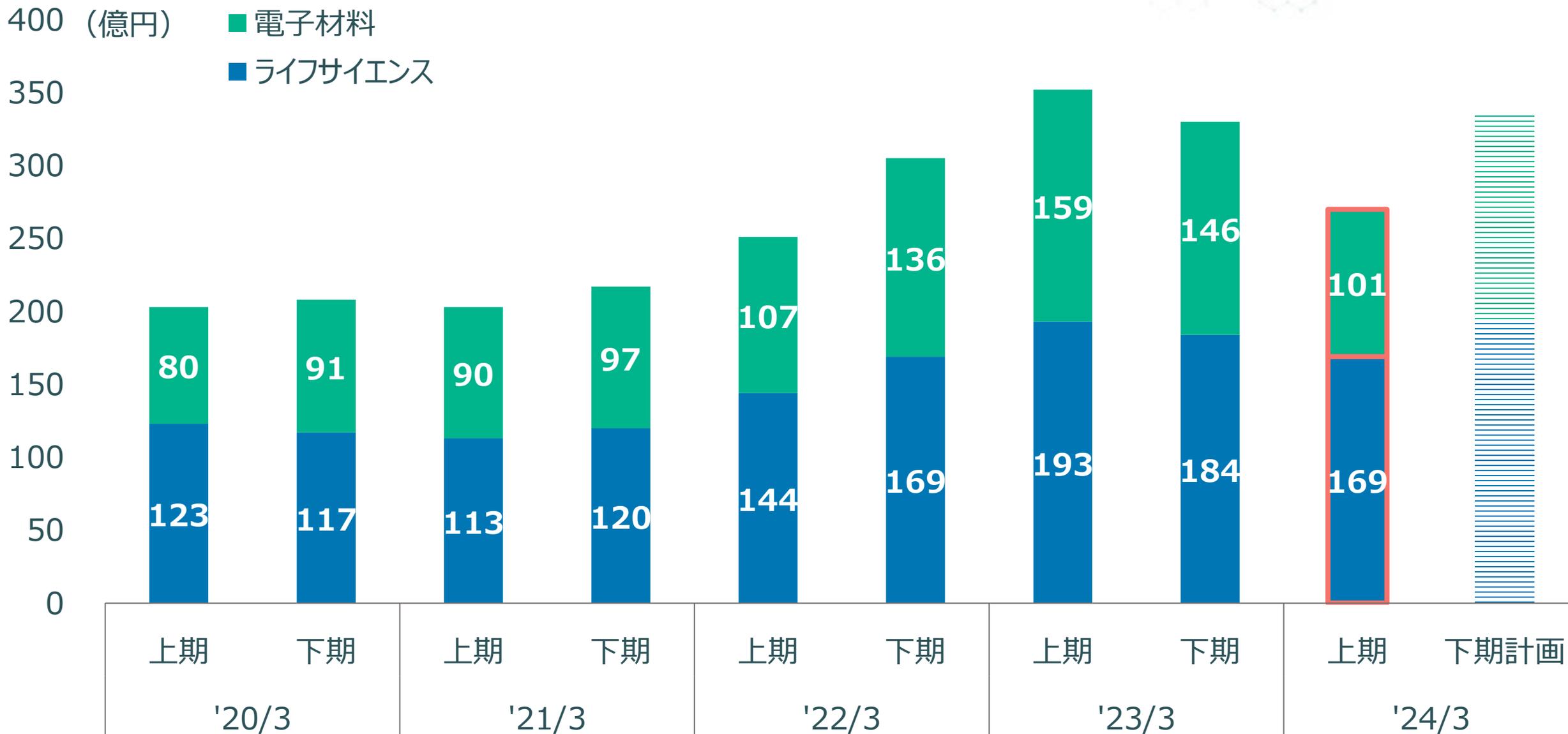


(単位：億円)	'24/3期	前年同期比		'24/3期	前年同期比	
	1Q	増減額	増減率	2Q	増減額	増減率
売上高	136.4	△39.0	△22.2%	134.9	△43.2	△24.3%
営業利益	31.9	△14.9	△31.9%	23.8	△24.9	△51.1%
経常利益	37.2	△16.3	△30.5%	25.1	△28.7	△53.3%
四半期純利益	24.5	△12.0	△33.0%	18.3	△20.2	△52.4%
償却前営業利益	41.8	△14.9	△26.4%	41.8	△17.5	△29.6%
1株当たり 四半期純利益	69.6 円	△34.2 円		52.0 円	△57.3 円	

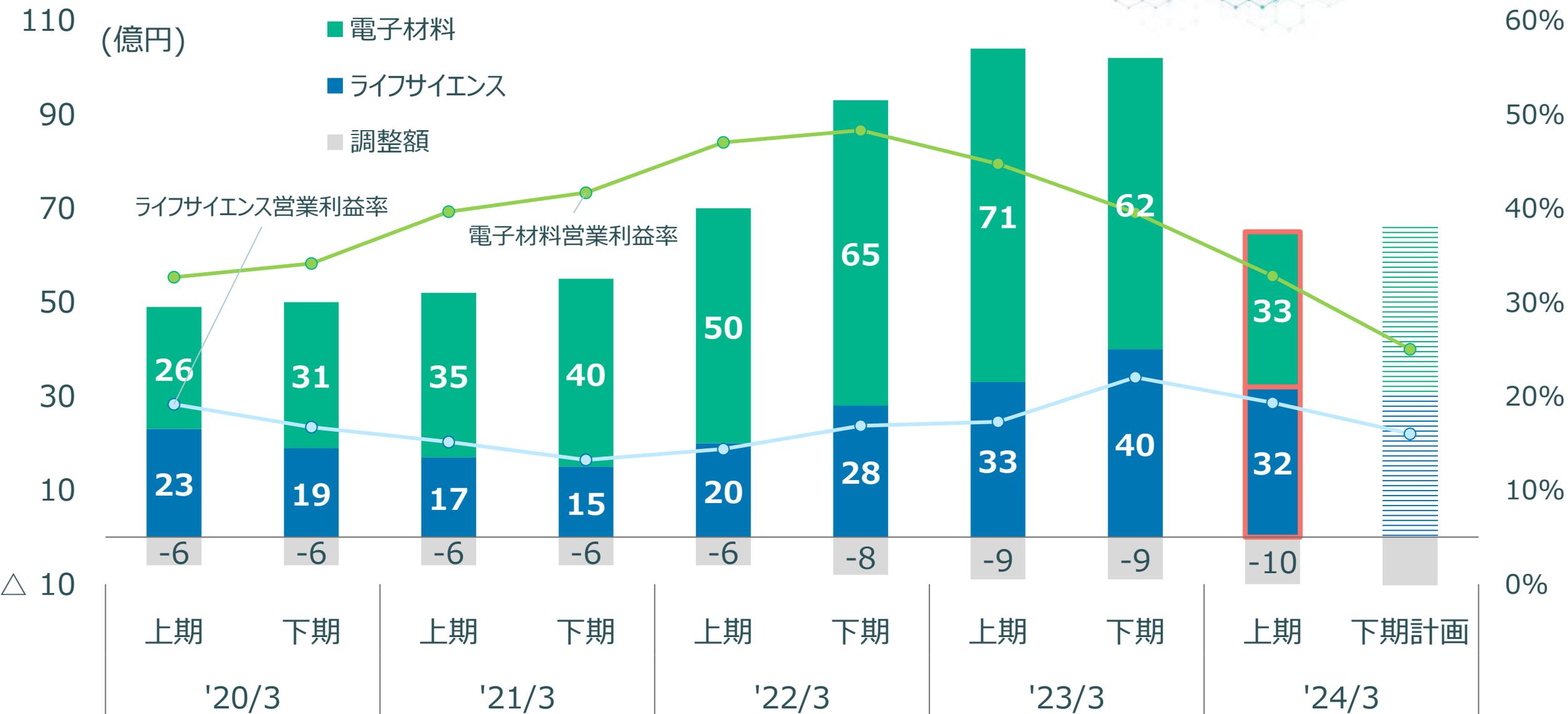
2024年3月期 四半期別業績推移



セグメント別推移【売上高】



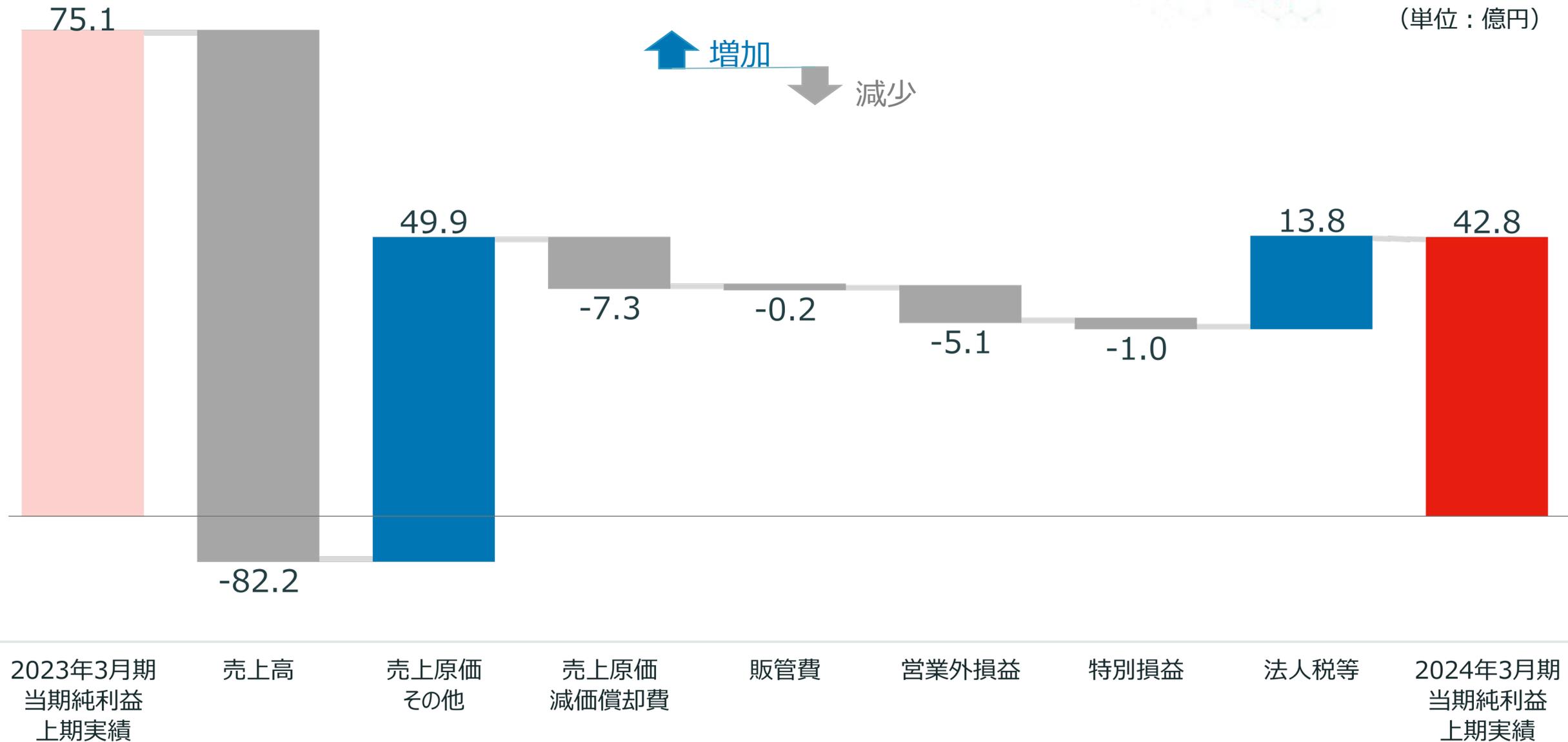
セグメント別推移【営業利益】



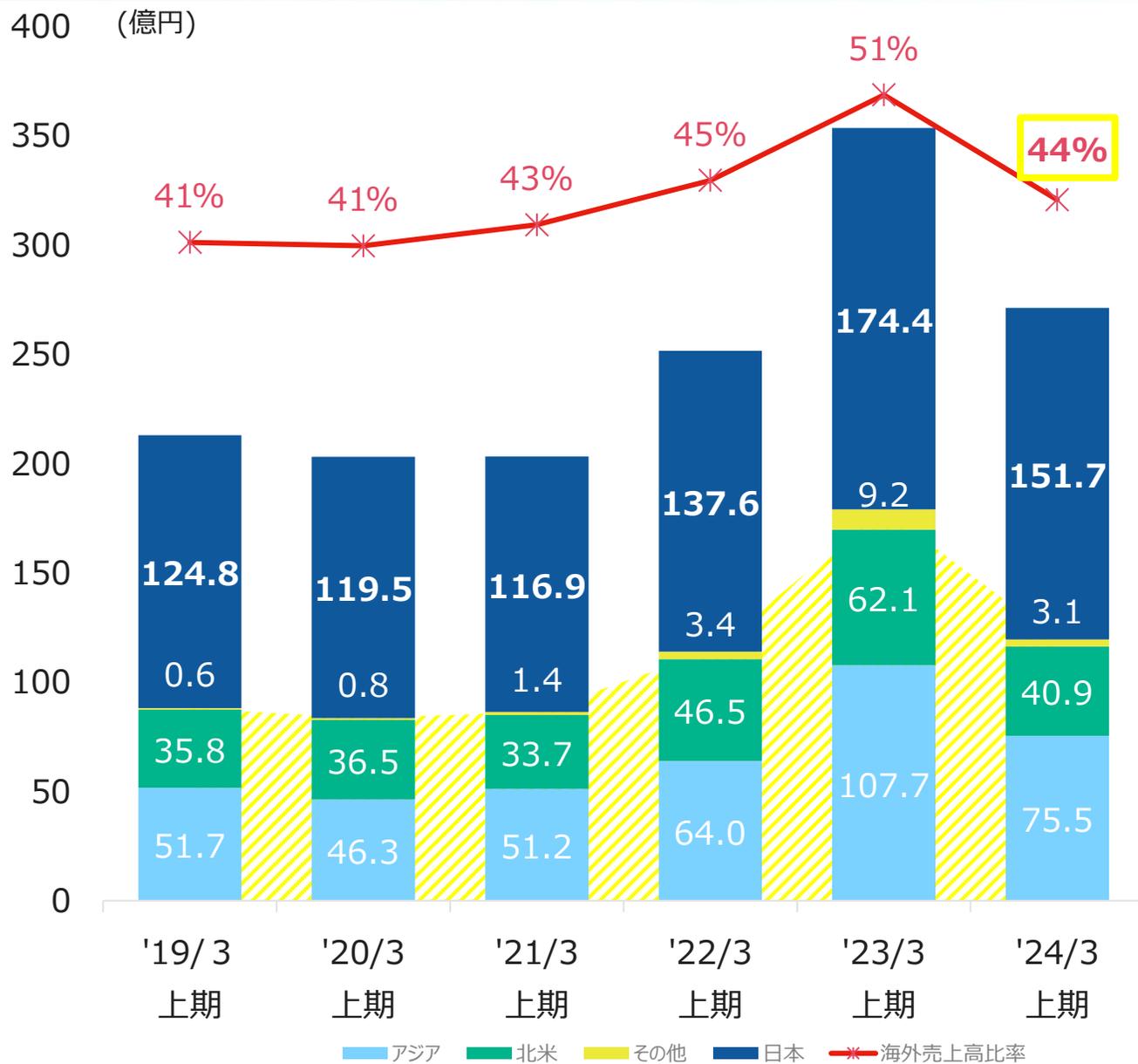
2024年3月期第2四半期 当期純利益増減要因



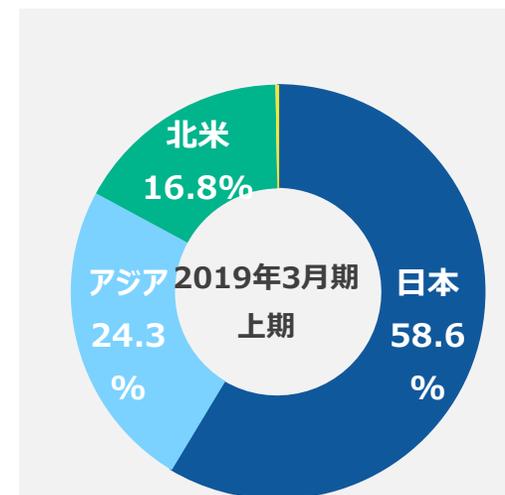
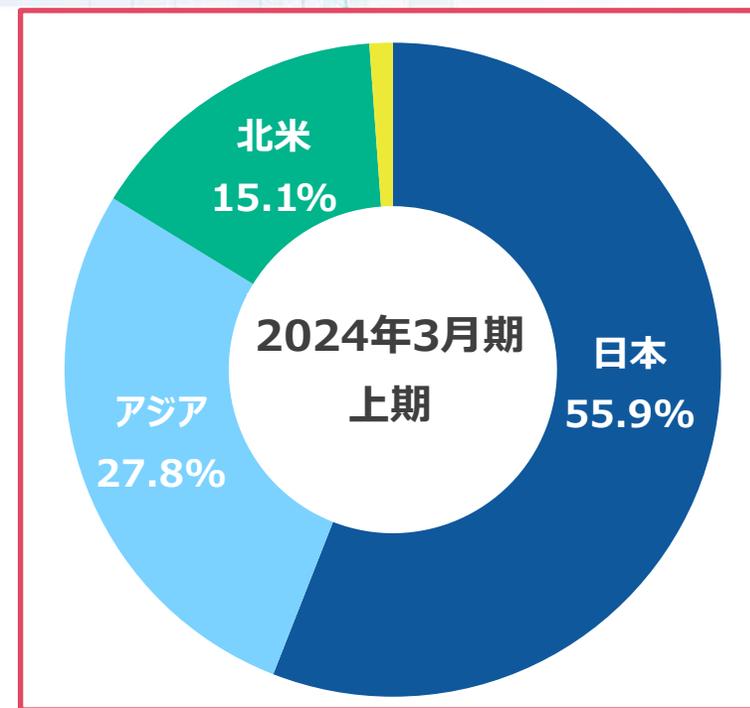
(単位：億円)



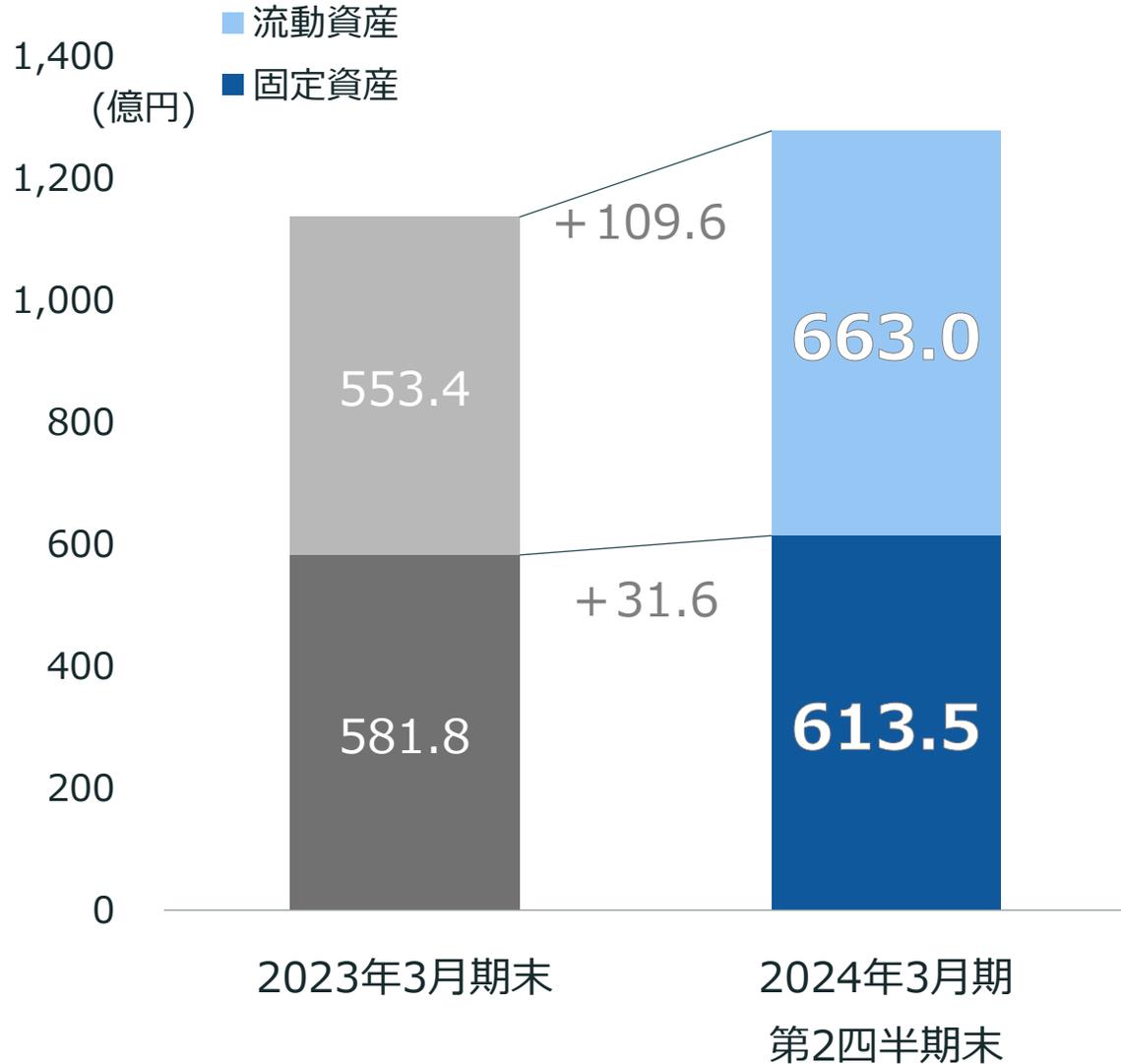
海外売上高推移



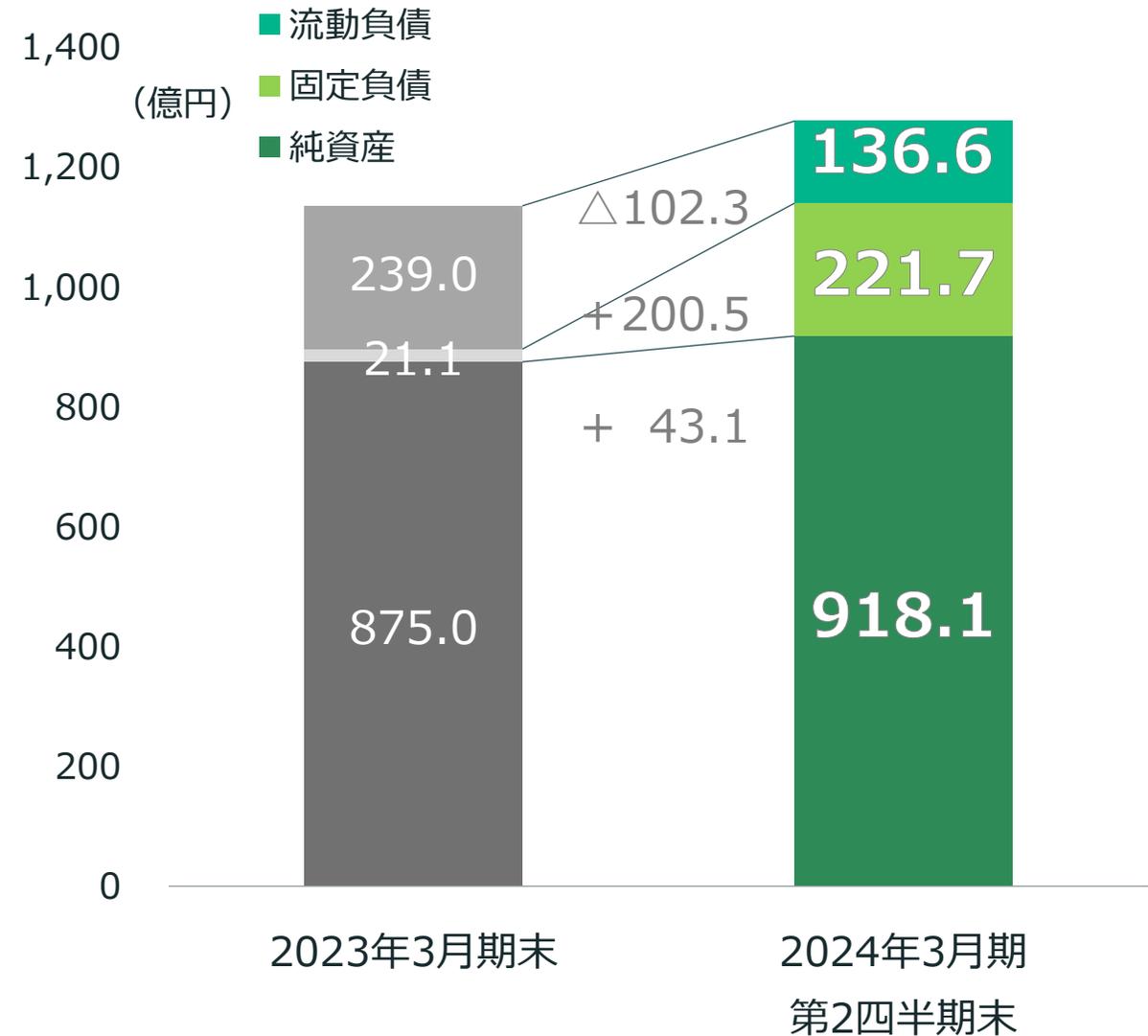
海外売上比率



資産



負債・純資産



連結貸借対照表



流動資産 (前期末比 +109億)

- 現金及び預金の増加
- 棚卸資産の増加
- その他の増加(未収消費税等)

↑前期末比
+109

663.0

↓前期末比
△102 136.6

↑前期末比
+200 221.7

負債 (前期末比 +98億)

流動負債 (前期比 △102億)

- 設備関係未払金の減少
- 未払法人税等の減少

固定負債 (前期比 +200億)

- 長期借入金の増加

総資産

1,276.5億円
前期末比 +141億円

固定資産 (前期末比 +31億)

- 建物及び構築物の増加
- 機械装置および運搬具の増加
- 建設仮勘定の減少

↑前期末比
+31

613.5

↑前期末比
+43

918.1

純資産 (前期末比 +43億)

- 利益剰余金の増加
- 為替換算調整勘定の増加

(単位：億円)

キャッシュフローの状況



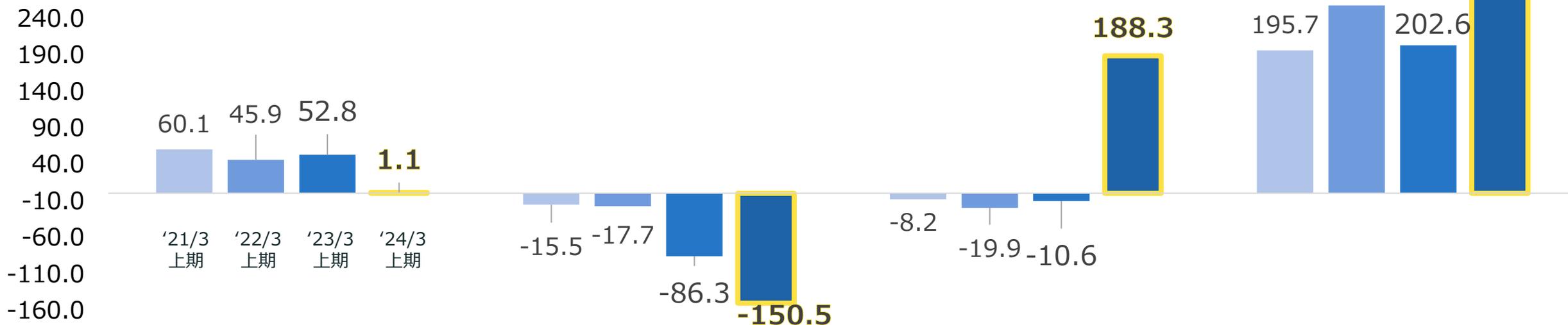
営業活動による キャッシュフロー

投資活動による キャッシュフロー

財務活動による キャッシュフロー

現金及び現金同等物 期末残高

(億円)



■ キャッシュフロー主な内訳

営業活動によるキャッシュフロー

税金等調整前当期純利益	+62
減価償却費	+27
棚卸資産の増加	△29
法人税等の支払い	△35

投資活動によるキャッシュフロー

有形固定資産の取得	△111
無形固定資産の取得	△25

財務活動によるキャッシュフロー

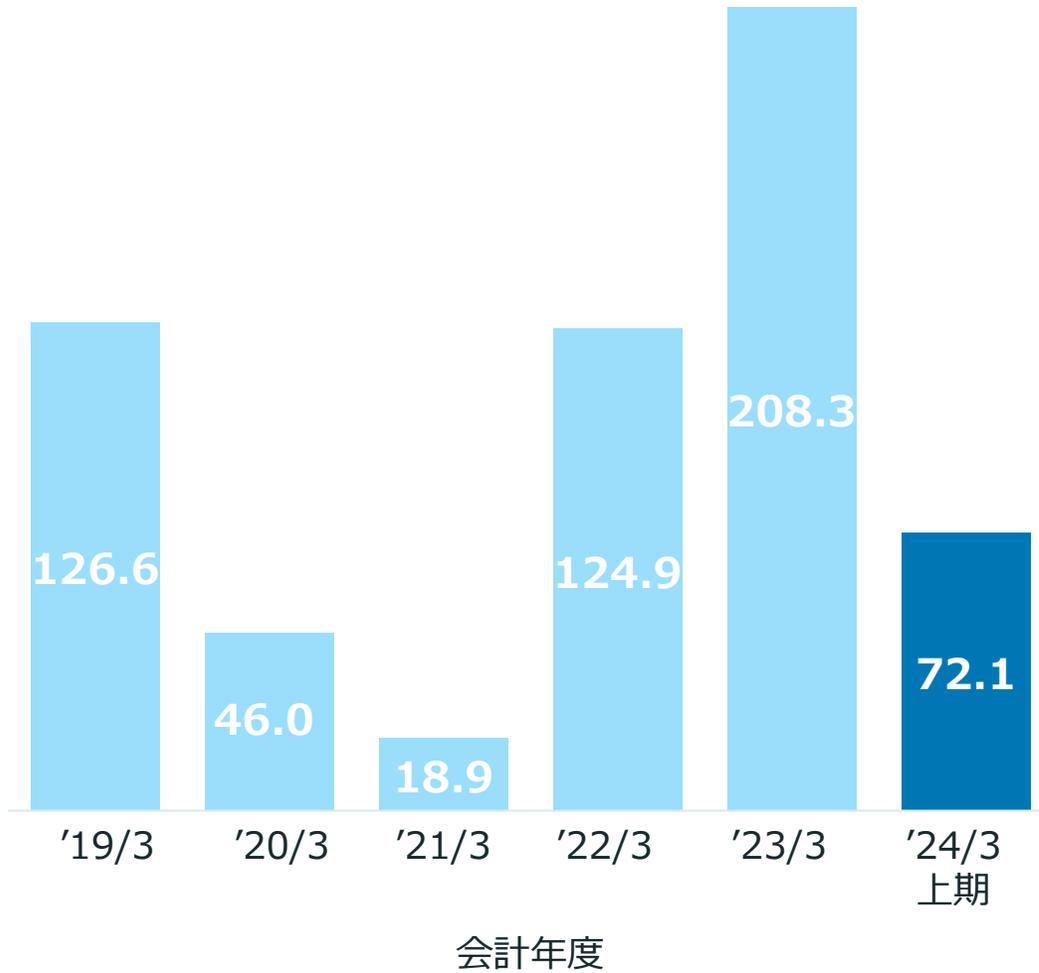
長期借入による増加	+200
配当金支払い	△11

設備投資額・減価償却費・研究開発費推移



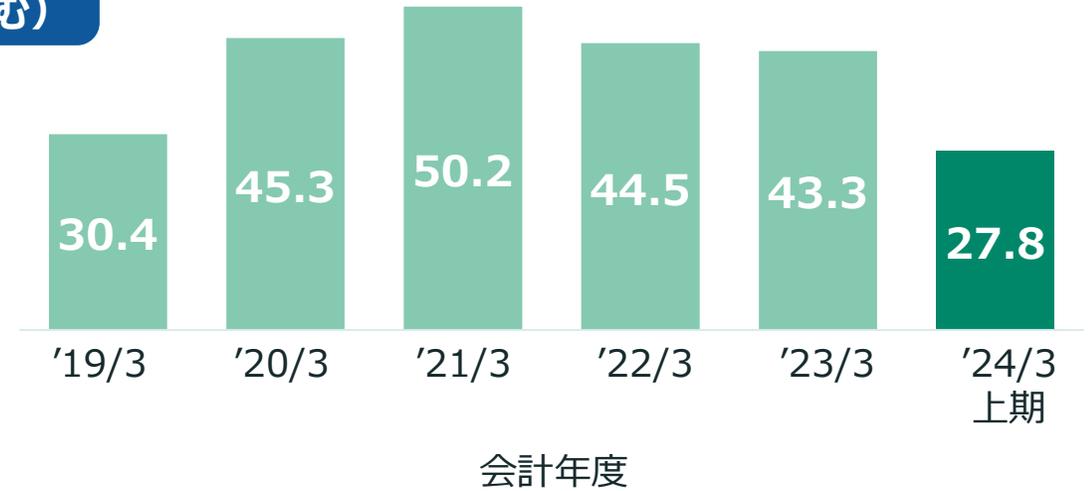
設備投資額

(単位：億円)



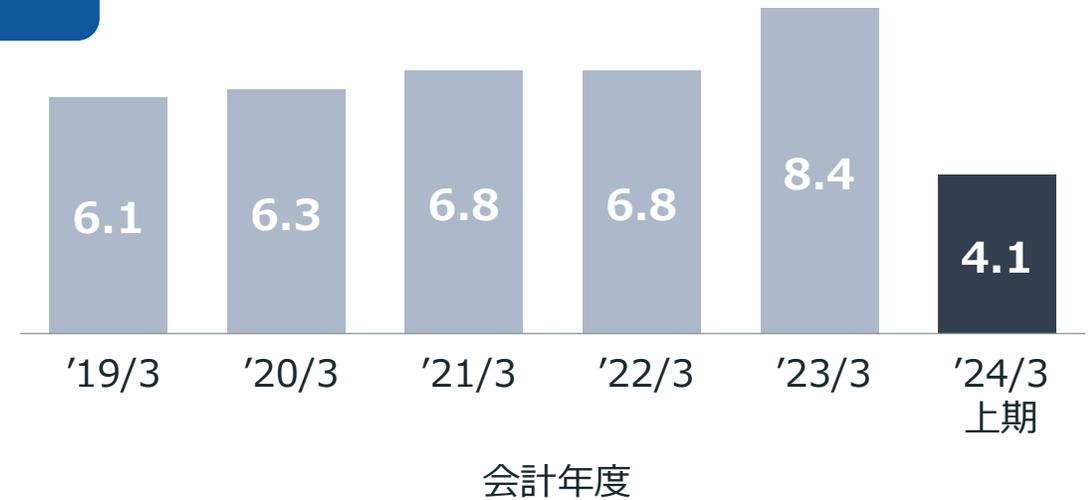
減価償却費 (のれん償却含む)

(単位：億円)



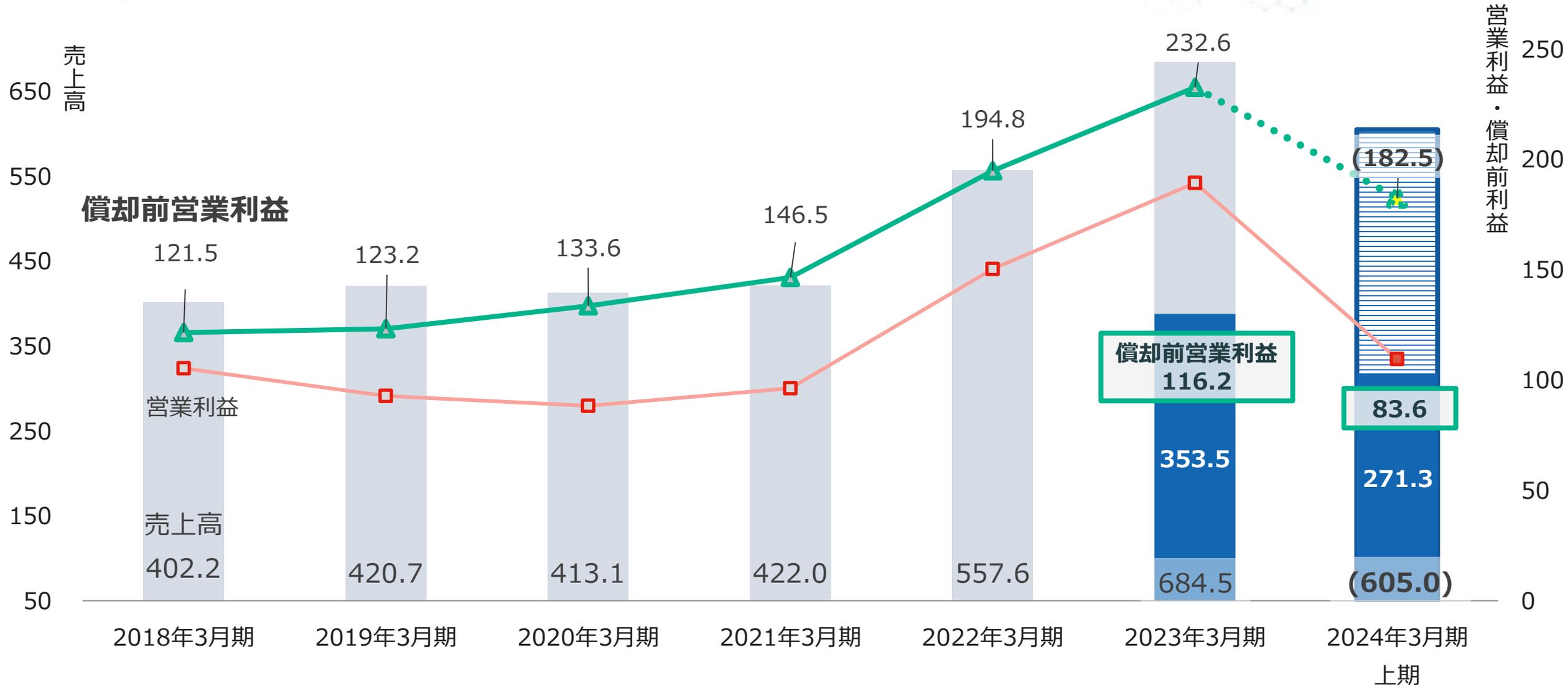
研究開発費

(単位：億円)



償却前営業利益推移

(単位：億円)



(カッコ内:計画)

II. 事業の概況

ライフサイエンス事業



- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- フマル酸類
- ビタミンC類
- 食品添加物製剤類
- その他果実酸類
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)
- 無水マレイン酸類
- 高純度有機酸



電子材料および 機能性化学品事業



- シリカ関連誘導品
 - ・ 超高純度コロイダルシリカ
 - ・ 高純度オルガノシリカゾル
 - ・ シリカナノパウダー
 - ・ アルキルシリケート
- その他機能性化学品

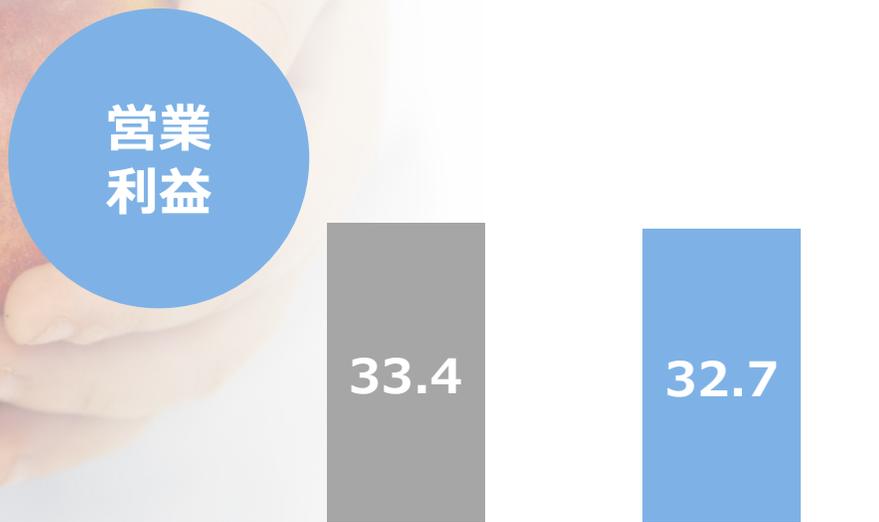
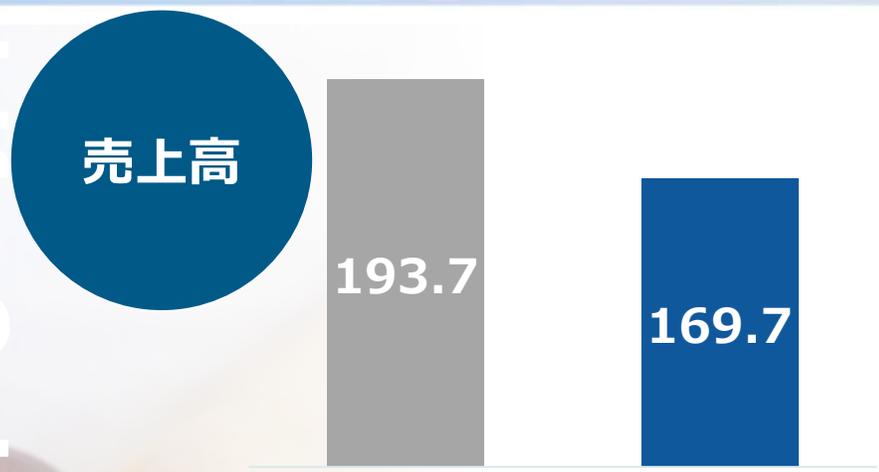


II. 事業の概況

ライフサイエンス事業



Life Science



(単位：億円)

前期実績 当期実績

売上高 増減要因		
+	食品向け販売堅調	需要回復、比較的安定 中国国内販売増加
	為替のプラス効果 価格改定の実施	ドル建て輸出価格・外貨建て売上高の円換算増 グルコン酸類の価格改定
-	工業/日用品用途での物量減	コロナ禍後の生活様式の変化(入浴剤、洗剤) 金属メッキ・洗浄剤の需要低調
	リンゴ酸輸出量の減少	急拡大からの揺り戻し、物流混乱後の顧客在庫調整 市場価格の急落、大手顧客でのシェアダウン

営業利益 増減要因		
+	主原料価格の落ち着き	ベンゼン価格の落ち着き
	価格改定の実施	グルコン酸類の価格改定
-	為替の影響	円安による仕入れ価格高騰
	売上の減少	果実酸類の販売物量減
	コストアップ	水光熱費の上昇・生産調整

I. 果実酸コンビナート実現 次の段階へ(from 1st to 2nd Phase)

(1) リンゴ酸 (2) クエン酸 (3) グルコン酸

II. 生産体制再構築による効率化

大阪工場と鹿島事業所

III. FFAビジネスの拡大加速

コート果実酸・次世代製品・ストレスフリー製剤

FFAとは？

機能性果実酸(Functional Fruits Acid)

食品添加物製剤

(Formulation of Food Additives)

食品素材・食品添加物製剤

(Formulation of Food Materials and Food Additives)

機能性食品素材・食品添加物

(Functional Food Material and Food Additive)

機能性果実酸

(Functional Fruits Acid)

I. 果実酸コンビナート実現 次の段階へ (from 1st to 2nd Phase)



Phase_1

2021

大阪工場の多機能化、
国内生産拠点の再編

2020

鹿島事業所でのリンゴ酸安定生産

海外販売拡大による稼働率アップ

2019

リンゴ酸の
一貫した生産体制の確立

2014

三井化学から有機酸ビジネスの承継
無水マレイン酸・フマル酸
生産移管

2017

鹿島事業所設立

Phase_2

- リンゴ酸 生産設備の高稼働、低コスト
- 海外シェア 拡大から更なる拡大・強化
- 重点顧客へ継続営業
- 超高純度品の自社製造
- 機能性果実酸製品の販売強化
- リンゴ酸を核に果実酸類の海外新展開
- 各エリアでの生・販・技の充実

青島扶桑精製加工

FUSO

扶桑タイランド

PMP

● リンゴ酸

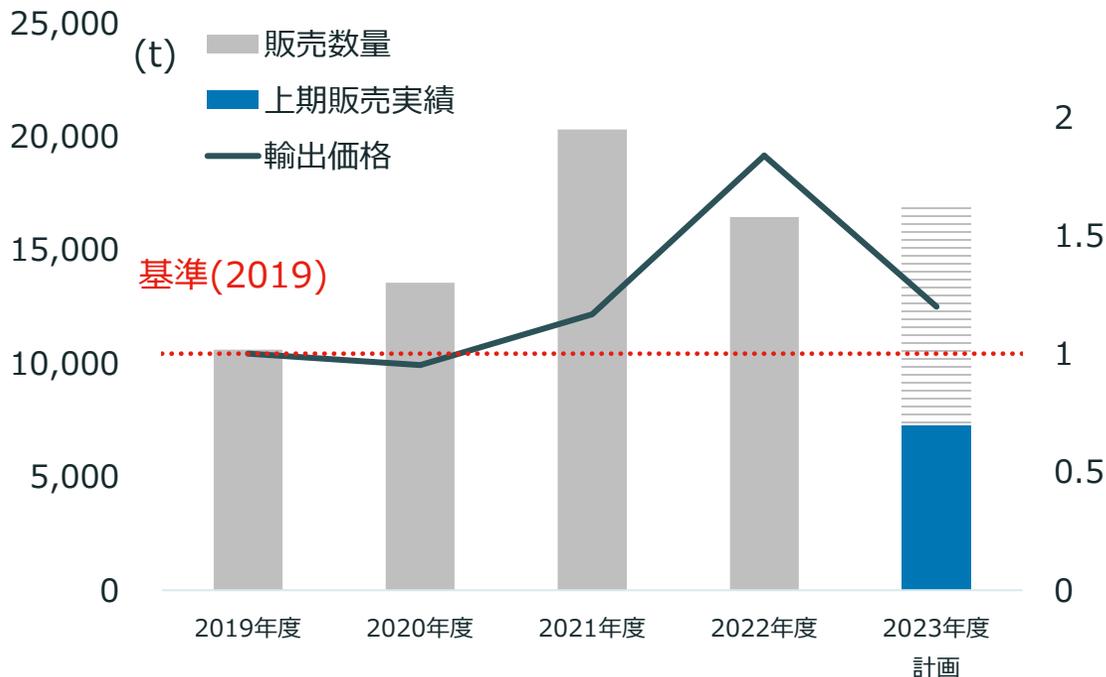
● クエン酸

● グルコン酸Na

I. 果実酸コンビナート実現 2nd Phase ● リンゴ酸



■ 販売数量推移



■ 海外販売シェア推移



■ 2023年度計画

- 鹿島事業所を中心としたリンゴ酸高稼働率維持
- 工程ボトルネックの改善による増産及びコスト低減
- 販売網の強化・拡大
- 機能性果実酸としてのコート果実酸M85・M90の販売

■ 2023年度上期

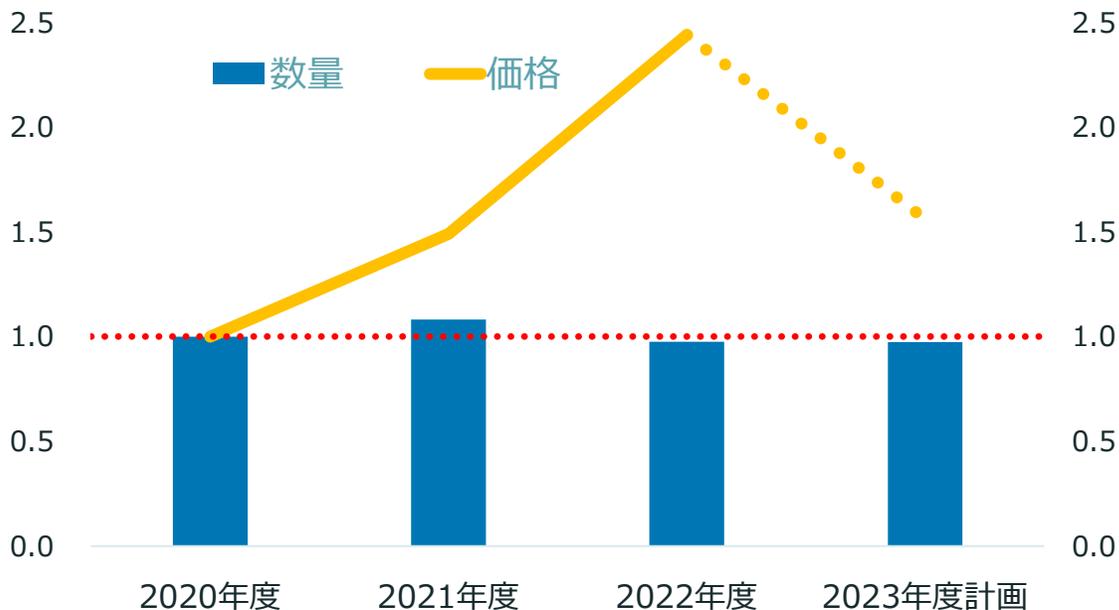
- 海外輸出販売量の減少(欧州向け)、市場価格の下落
- 国内外：工業用途(メッキ、洗浄剤)及び日用品需要の低迷
- コスト削減、ボトルネック改善の取組み継続
- 海外新興国、未納入国へのアプローチ
- 日本顧客向けコート果実酸M採用



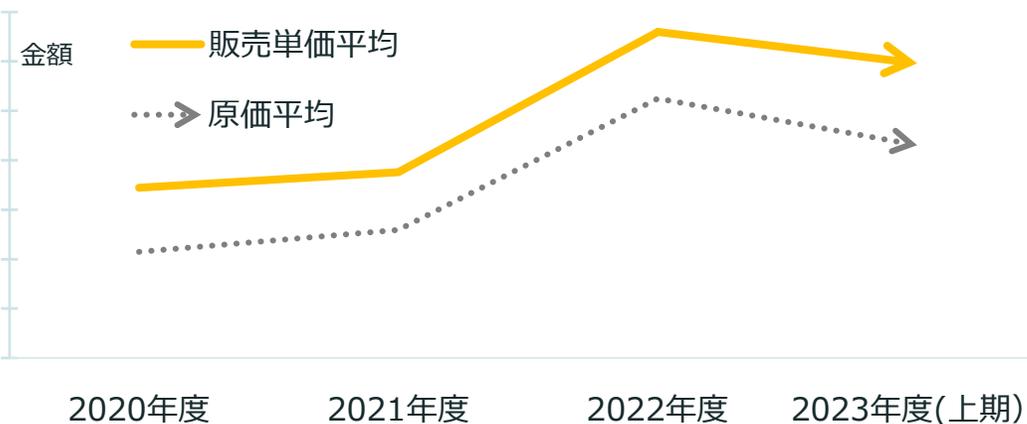
I. 果実酸コンビナート実現 2nd Phase ●クエン酸



■ 販売数量推移



■ 販売単価と原価の推移



■ 2023年度計画

- 市況価格の動向に迅速に対応
- 飲料/洗剤メーカーでのシェアアップ
- 超高純度クエン酸（アプリシャス）の内製化

■ 2023年度上期

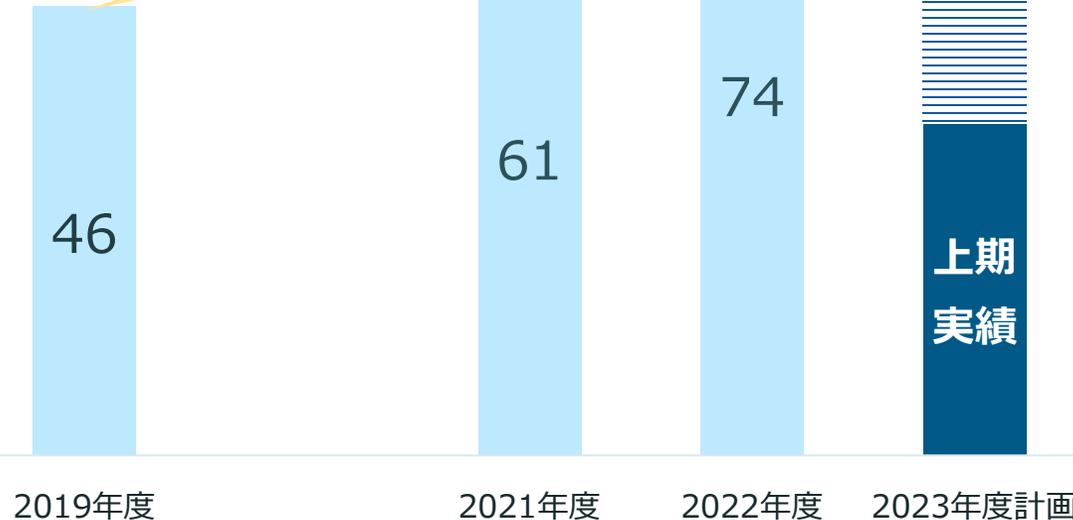
- 工業、半導体用途での需要減
- 計画物量減、市場価格の下落は一段落
- 飲料向けの販売量維持
- 大手顧客でのシェアダウン、価格交渉実施（下期はシェア回復見込み）
- 超高純度クエン酸の内製化、詳細設計を開始（2024年度下期生産、認定作業を開始予定）



■ PMP売上推移



(単位：億円)



■ 2023年度計画

- 原材料価格・仕入価格の上昇に伴う、価格改定実施
- PMPの増強設備 (2023年11月稼働予定)
- 下期より、北米でのシェア奪還
- ヘルシャスK (グルコン酸カリウム) の拡売



■ 2023年度上期

- 価格改定の実施、供給能力により、一部顧客で納入先切替え
- 当初計画通り 設備増強工事が進捗 (11月完成)
- 1.2倍への能力増により、シェア奪回に向け顧客交渉開始
- 日本市場:物量横ばい、一部値上げ

Ⅱ. 生産体制再構築による効率化



鹿島事業所：基幹工場

リンゴ酸：設備最適化(安定・増産)挑戦、新製品設備の検討
 コロイダルシリカ：製造設備稼働

大阪工場：機能集約工場

多様な製品生産体制確立・新設備の安定稼働

リンゴ酸等、現製品

計画

- 通常生産
- 2工場の最適化によるコスト低減
- 新製品用特殊加工工場の実現

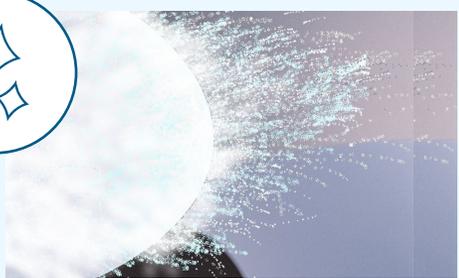
2023年度上期 進捗

- >>> 鹿島：通常生産、大阪：販売量に見合った生産調整
- >>> 鹿島：認定を加速、ボトルネック改善検討の継続
大阪：人材育成/効率化/品質改善を目指しTPMを開始
- >>> FFA製品の生産開始

※TPM: Total Productive Maintenance



■ 新・厚生棟
 2023年6月 着工
 8月 起工式
 2024年5月 完成予定



■ 新規設備
 超高純度クエン酸
 (工業用洗浄:アプリシャス)
 製造設備建設準備中

■ コート果実酸

FSSC22000：5月認証取得
 ハール：2024年3月
 認証取得予定

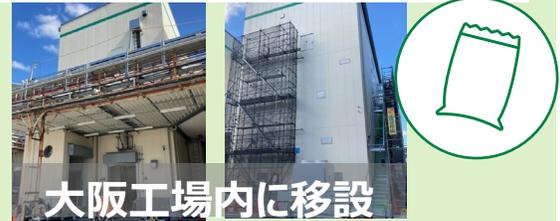


コート果実酸生産設備

■ 十三工場機能移設

2022年12月 完工
 2023年 5月 生産開始
 2024年 3月 十三工場停止
 →当初10月からの変更
 十分な在庫確保を計画

食品添加物製剤・果実酸の粉碎品の小分け



大阪工場内に移設



【2023年目標】

コート果実酸



- 採用 20社以上
- コート果実酸を活用した新しいコンセプトの機能的な食添製剤の上市
- 油脂以外のコート果実酸の開発
- FSSC22000を5月取得予定

次世代製品



- 酢酸（粉末化）
- フマル酸（易溶化）
- グルテンフリー食品用製剤
- 米飯向け新規食添製剤
- 新規製品開発

ストレスフリー製剤



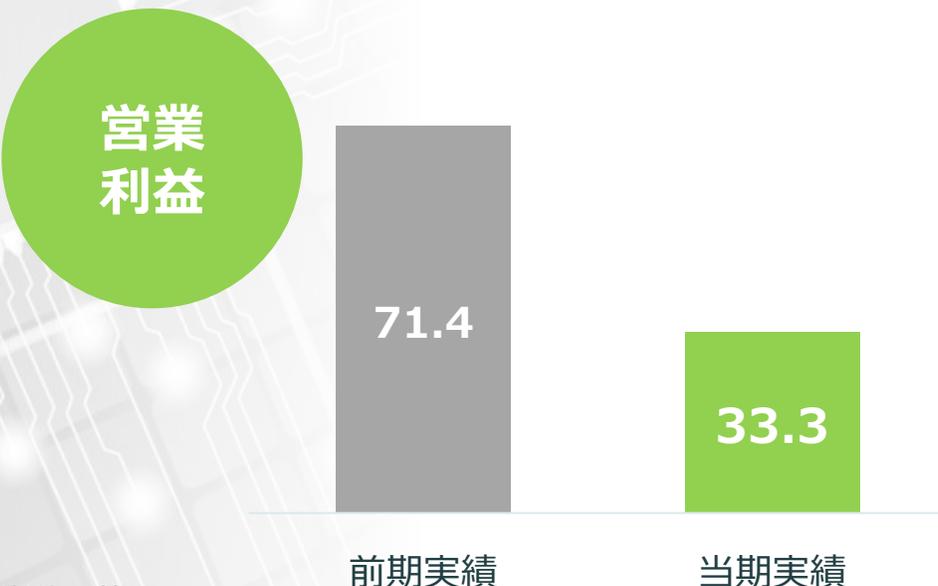
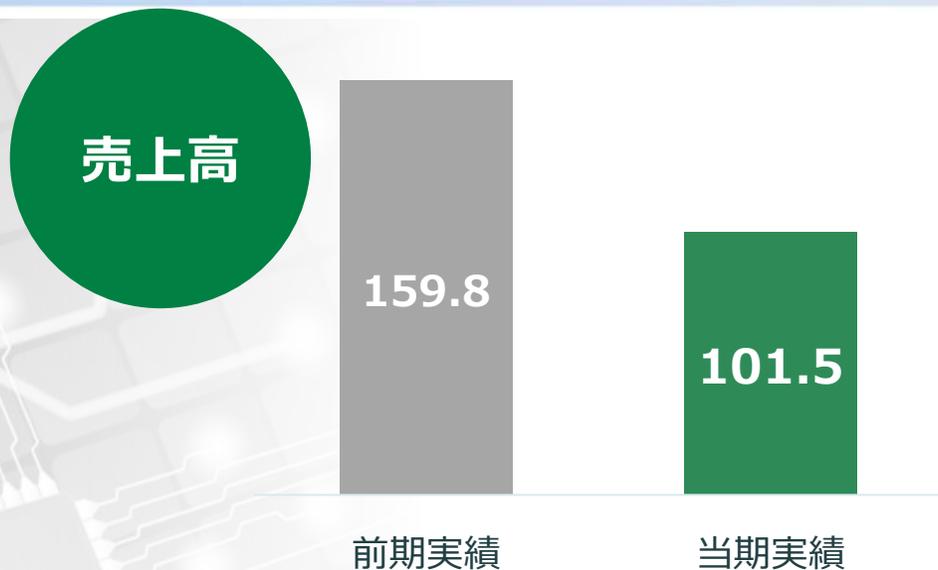
- 高温によるイネのダメージ低減
- トマト、ブロッコリー等夏場の高温障害予防

【2023年上期進捗】

- 国内メーカー4社で採用
- 欧米、アジアのグミ、ベーカリーメーカーで評価中
- 保水/日持ち向上製剤(ランチフレッシュ)の上市
- 油脂以外のコート果実酸の開発継続
- FSSC22000を5月に取得完了
- 実機製造の検討継続中
- 改良型グルテンフリー食品用製剤の開発継続
- 米飯向けランチフレッシュ数社で採用
- 新規褐変防止製剤の上市、チルド魚加工品で採用
- 新規酸化防止製剤(オキシナジー)の上市
即席麺メーカーで評価中
- 大学と顧客との共同研究を本格化
詳細メカニズムの解明進める
- 猛暑の影響もあり、新規問合わせに対応中

II. 事業の概況

電子材料および機能性化学品事業



単位：億円

売上高 増減要因		
+	価格改定	エネルギーコスト他に対応
	為替	円安による売上増効果
-	物量の減少	メモリー半導体を主に半導体市況回復の遅れ
		シリコンウエハの調整開始が他材料よりも遅れたことによる回復遅れ
		各社の市場弱含み判断による在庫消化遅れ、調整期間の長期化

営業利益 増減要因		
+	価格改定	エネルギーコスト他に対応
-	物量の減少	物量減少の影響によるコスト上昇
	減価償却費の増加	鹿島事業所の新設備に伴う設備投資
	コストの増加	販売量に見合った生産調整
		エネルギー・資材コストの上昇
		設備増強による人員増

I. 成長を続ける半導体市場への対応

最先端技術への対応

中長期的視点に立った半導体ビジネスへのリスク対応

II. 新生産体制の確立

顧客認定のタイムリーな実施

2拠点体制を活かした安定供給

III. 外部環境変化への対応

サプライチェーンリスクへの対応

エネルギーコスト等急騰による価格対応

IV. 新規ビジネス開発

新たな付加価値を生み出す次世代材料開発

I .成長を続ける半導体市場への対応



- 来年度以降、主要半導体メーカーの設備拡張完成予定



2023年 見通し

- 2022年3Qから続く、半導体産業の調整局面が下期～年内まで続く見込み
- 今期は、対前年比4%減のマイナス成長を見込む
(出典：WSTS日本協議会資料)
- 最先端3nm nodeに向けシリカ製造ラインを立ち上げ
- 次世代2nm nodeは、2025年量産開発を推進

2023年上期進捗

- 2023年1Qを底に緩やかな回復も、調整局面は継続中
- 顧客各社の見解は、本格的な回復は2024年後半になる見通し。回復後を見据えた準備中
- 最先端3nm node立ち上げにより、次世代2nm node開発へシフト



地政学的リスク

- グローバルでのサプライチェーンの見直し

- 原料サプライチェーンの停滞・途絶リスクに備え、複数ソースの調査検証を実施



最先端半導体技術開発

- データ量の増加に伴う需要増
- 自動車などの半導体需要も市況調整局面後、再拡大の予想

- さらなる微細化に向けて、顧客と綿密に連携
- 5G、6G対応DC向け、AIといった最新技術を支える半導体技術開発に追従

■ 超高純度コロイダルシリカ生産能力

①

鹿島事業所
2023年4月 完工（Ⅰ期）

投資金額 約200億円
【2023年8月～ 減価償却開始】



②

京都事業所
2024年9月完工予定

計画投資金額 約100億円
⇒2022年9月起工式



③

鹿島事業所
2025年7月完工予定（Ⅱ期）

計画投資金額 約200億円
⇒2023年8月起工式

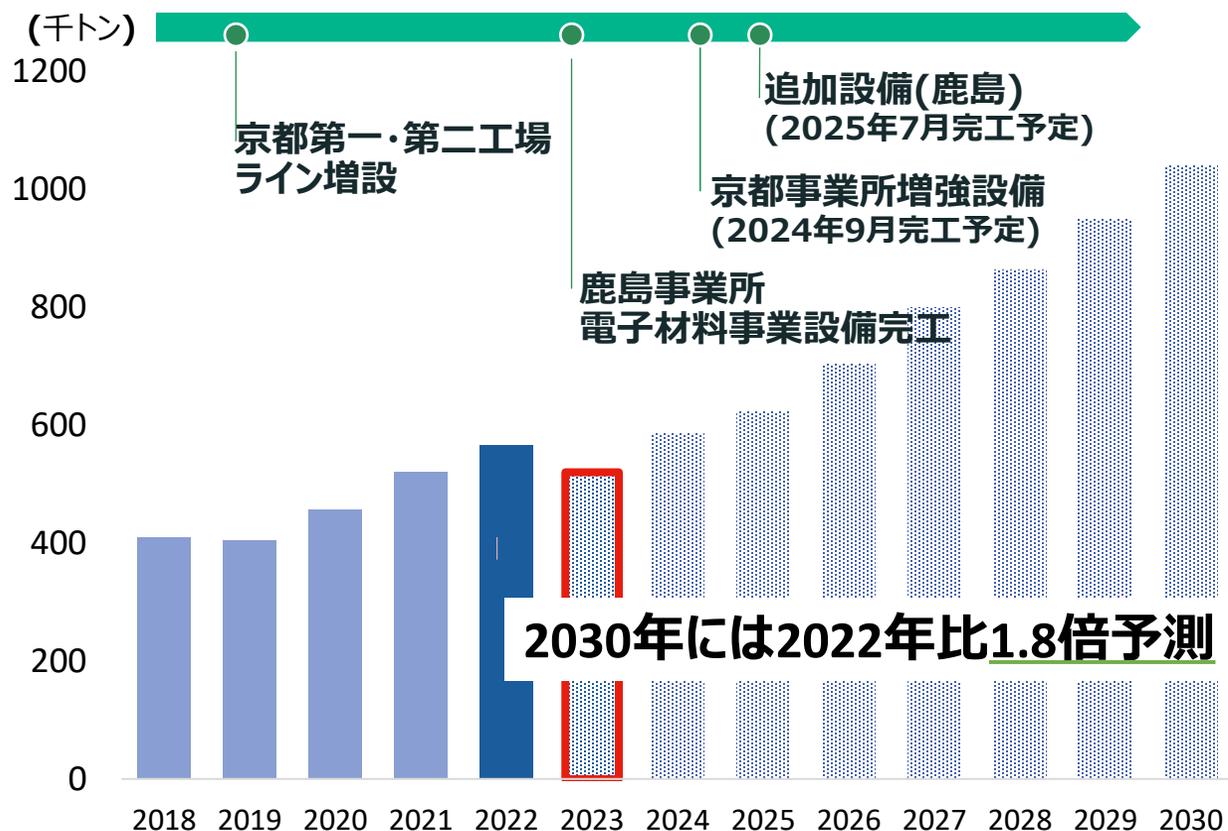


①～③の投資により、
2022年度比設備能力
約1.5倍

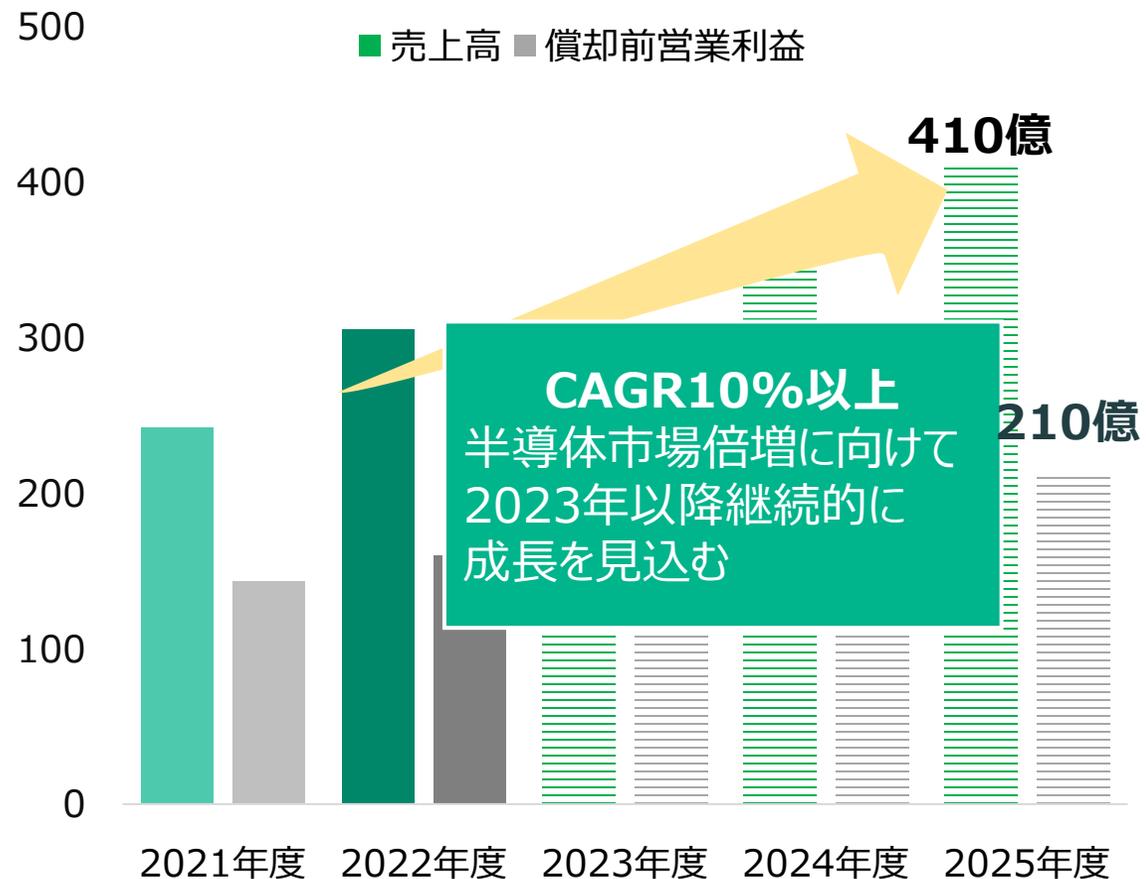
I .成長を続ける半導体市場への対応



2023年に一時的な調整局面を迎えたことにより、遅れを生じたものの変わらず長期的成長を見込む
(2022-2030 CAGR約8%)



**需要の拡大に応えることができる
生産能力と技術開発体制づくり**



Ⅱ. 新生産体制の確立



超高純度コロイダルシリカの
安定した供給継続

鹿島事業所の安定稼働

生産効率向上への
継続的な取り組み

顧客動向のキャッチアップ

2023年 計画

- 2023年4月 完工
- 5月：認定品の試作開始各社認定
- 8月：量産開始
- 10月～：5割稼働目標

- 製品・原料・工程管理の最適化
- 稼働日数のアップ
- 各グレードの高効率生産
- 品質安定化の為のデータ収集

- マーケット動向の早期把握
- 顧客品質要求への対応
- 各社次世代品への採用
- 中国マーケット展開への布石
- 市場回復への早期備え

2023年 上期進捗

- 第Ⅰ期工事は計画通りに完工
その後の、試作品・認定、量産も計画通り
- 半導体業界の調整が続いており、
市場回復に向けたフル稼働体制準備中
- 市況回復に備えた在庫と顧客在庫バランス
を顧客と共有することにより最大効率生産
を実施
- 市況の影響により稼働日数調整
- 鹿島新プラントにおいても、品質安定化
- 顧客から中長期的購買計画について
定期的更新
- 次世代品質要求に向けた工程改善検証
- 中国国策化に向けた具体的な顧客対象を
調査

Ⅲ. 外部環境変化への対応



2023年 計画

購買/物流/営業



- 生産能力増大に伴う、調達量増
- 原材料コスト高騰
 - ・ 販売価格への転嫁
 - ・ 購入量増に伴う価格交渉力アップ
- エネルギーコストの急騰
 - ・ 効率化、販売価格への転嫁
- 購買リスクの抽出と対策
- 出荷拠点の拡充・整備

BCP



- 京都/鹿島事業所 3工場
2拠点生産体制の確立
- 地政学リスクの分散
(購入国の分散)
- BCPプラン策定、更新

その他



- 2030年を見据えた中長期
設備計画策定
- 人員の確保・育成
- SDGs対応
- 新規開発品の早期投入

2023年 上期進捗

- ✓ エネルギーコスト高止まりへの対応
→高効率・省エネ配慮設計に基づいた設備選定
 - ✓ 販売価格へ適正な転嫁
 - ✓ 物流の効率化として顧客ロケーションを考慮した
外部倉庫活用を実施
-
- ✓ 2拠点3工場生産体制スタート
 - ✓ 原料サプライチェーンの停滞・途絶リスクに備え、
複数国ソースの調査検証
 - ✓ BCPプランの定期更新
-
- ✓ 設備計画の策定
 - ✓ 鹿島事業所での採用強化
 - ✓ SDGs対応 (サステナビリティ報告書更新)
 - ✓ 新規開発品の開発継続中



■ 2つの研究拠点で加速

- 産学連携・学会・特許活動等を通じた技術力の強化
- インターンシップ等による採用活動を強化



■ 特許戦略

- 他社特許：関連性以外の要因も抽出し、ビジネスリスクを算定
- 自社特許：リソースを重点的に投入し、出願・権利化推進

■ 半導体用途の深掘り

- Beyond 2nm微細化に要求される製品開発
- SiC等新材料に関する製品コンセプト策定
- 新たなコンセプト開発

■ 機能性材料・シリカの開発

- 低誘電率関連材料として市場サンプルワーク開始
- 医療、バイオ等用途開発



IV. 2024年3月期 業績予想



為替

コスト

市況

2024年3月期
当初前提

1ドル = 130円

水光熱費
緩やかに
高騰

原材料
高値
傾向

ベンゼン
前年より
落ち着き

- 半導体市場の調整局面
(夏頃からの回復見込み)
- 中国市場の回復

2024年3月期
予想

1ドル = 140円

高止まり

比較的
安定

前年
並み

- 半導体市場の回復遅れ
- コロナ禍からの経済回復
- 食品業界の需要回復

2024年3月期 業績予想

売上高

693億円

営業利益

138億円

当期純利益

94億円

償却前営業利益

217億円

2023.5
当初計画

605億円

109億円

79億円

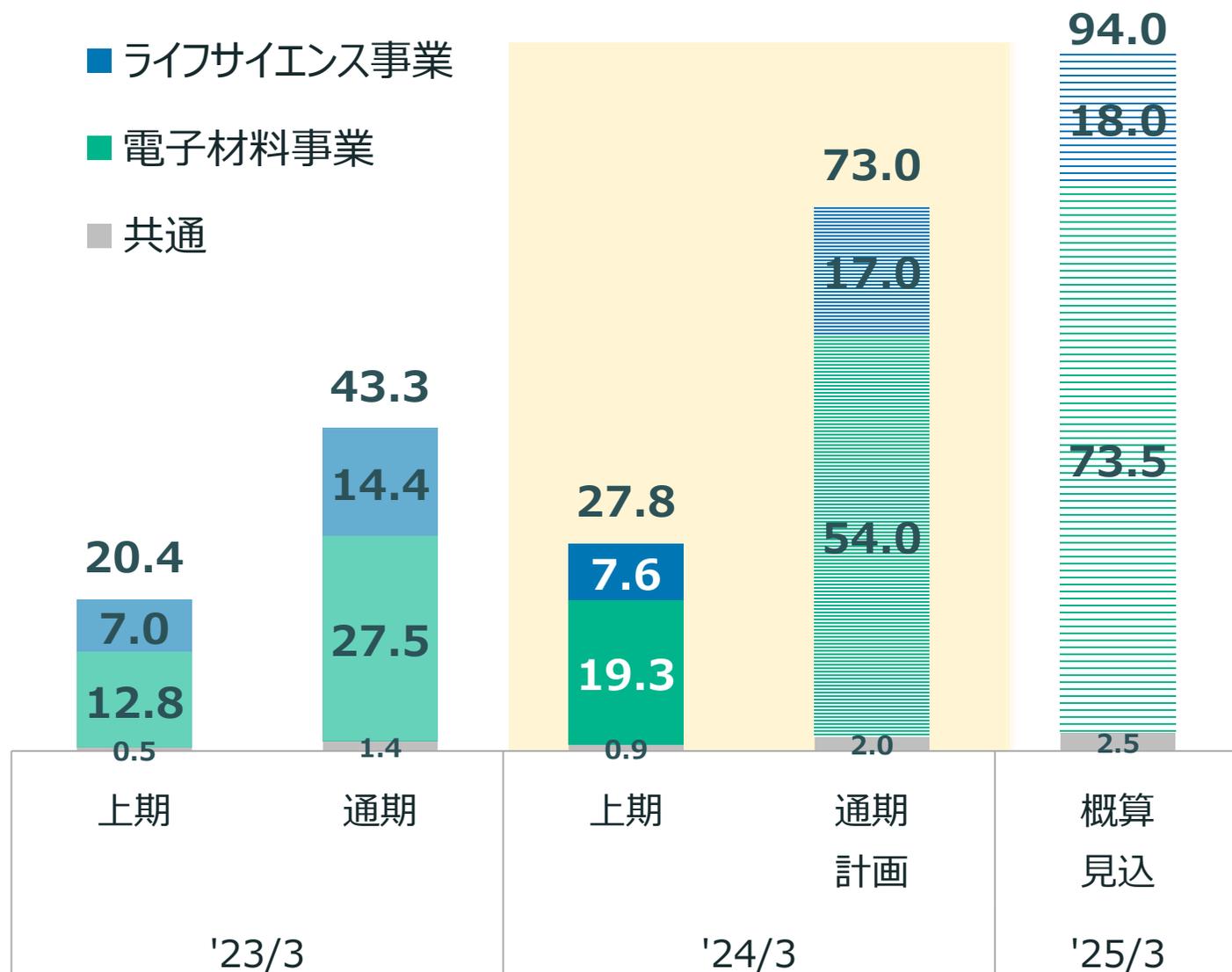
182億円

2023.9
修正計画

(単位：億円)	上期実績			通期業績予想		
	2024年3月期 上期	前年対比	2023年3月期 上期実績	2024年3月期	前年対比	2023年3月期 実績
売上高	271.3	△23.3% ↓	353.5	605.0	△11.6% ↓	684.5
■ ライフサイエンス事業	169.7	△12.4% ↓	193.7	363.0	△4.0% ↓	378.0
■ 電子材料および 機能性化学品事業	101.5	△36.4% ↓	159.8	242.0	△21.1% ↓	306.5
営業利益	55.8	△41.7% ↓	95.7	109.5	△42.2% ↓	189.3
■ ライフサイエンス事業	32.7	△2.1% ↓	33.4	63.0	△14.9% ↓	74.0
■ 電子材料および 機能性化学品事業	33.3	△53.4% ↓	71.4	69.0	△48.5% ↓	133.9
(調整額)	△10.2		△9.1	△22.5		△18.6
経常利益	62.4	△41.9% ↓	107.5	115.5	△41.5% ↓	197.4
当期純利益	42.8	△43.0% ↓	75.1	79.0	△44.1% ↓	141.2
償却前営業利益	83.6	△28.0% ↓	116.2	182.5	△21.6% ↓	232.6
1株当たり 当期純利益	121.6円	△43.0% ↓	213.2円	224.1円	△44.1% ↓	400.9円

セグメント別償却費(単位：億円)

- ライフサイエンス事業
- 電子材料事業
- 共通



2023年3月期

- コート果実酸設備
- 十三工場の機能移転

2024年3月期

- 鹿島事業所の新設備
- PMP社グルコン酸類新設備
- 本社移転

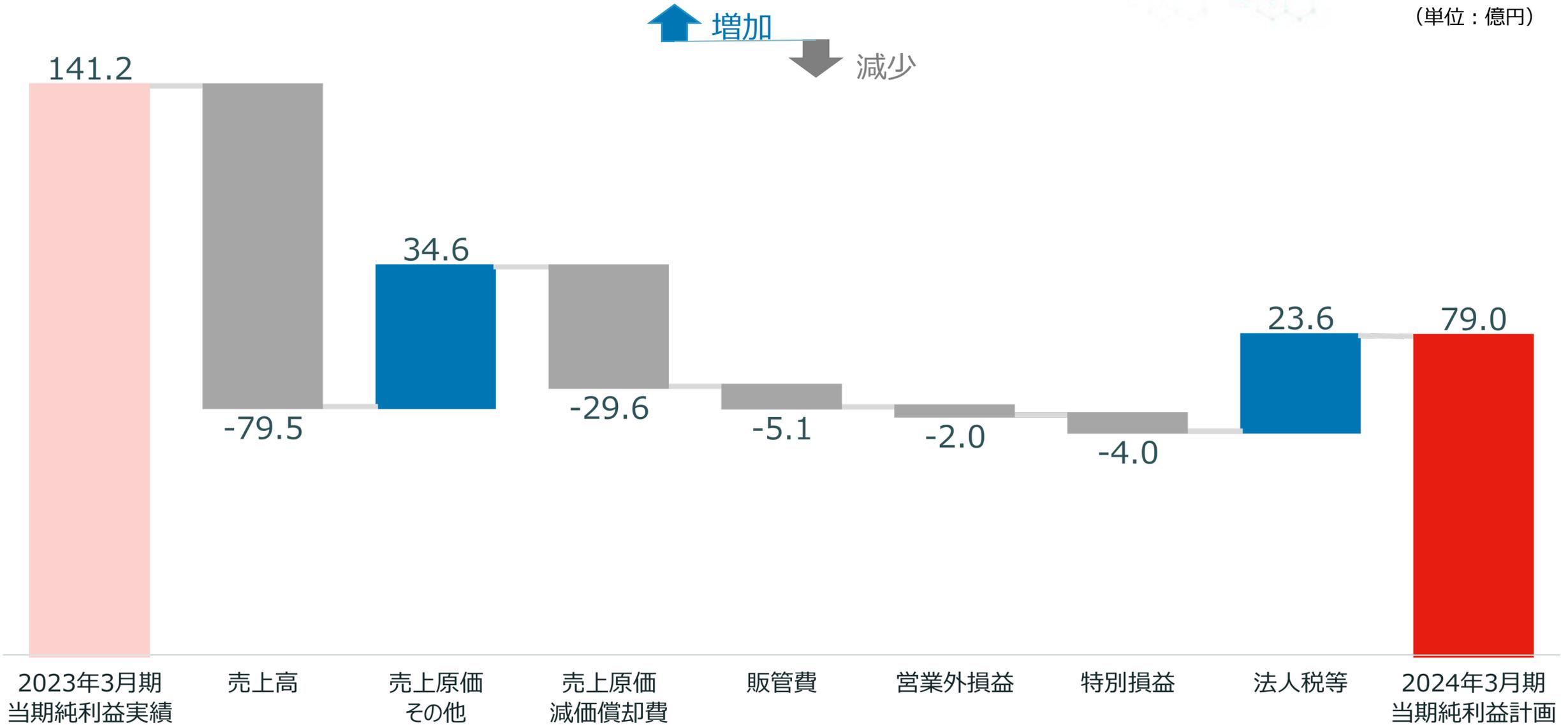
2025年3月期

- 京都事業所の新設備
- 鹿島事業所の新事務所棟

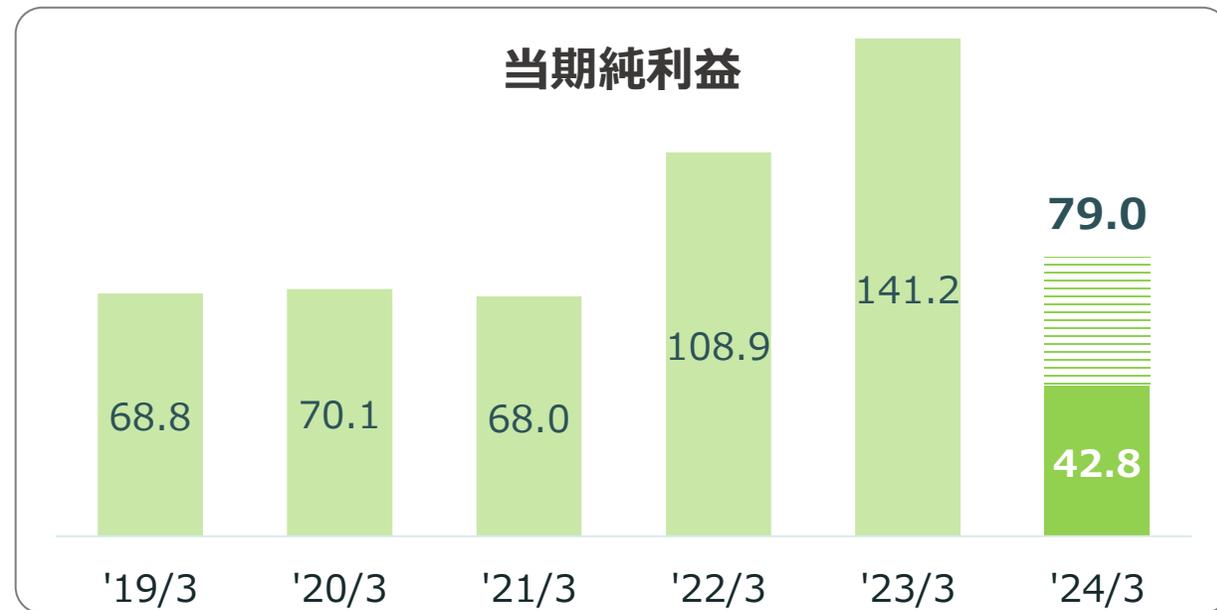
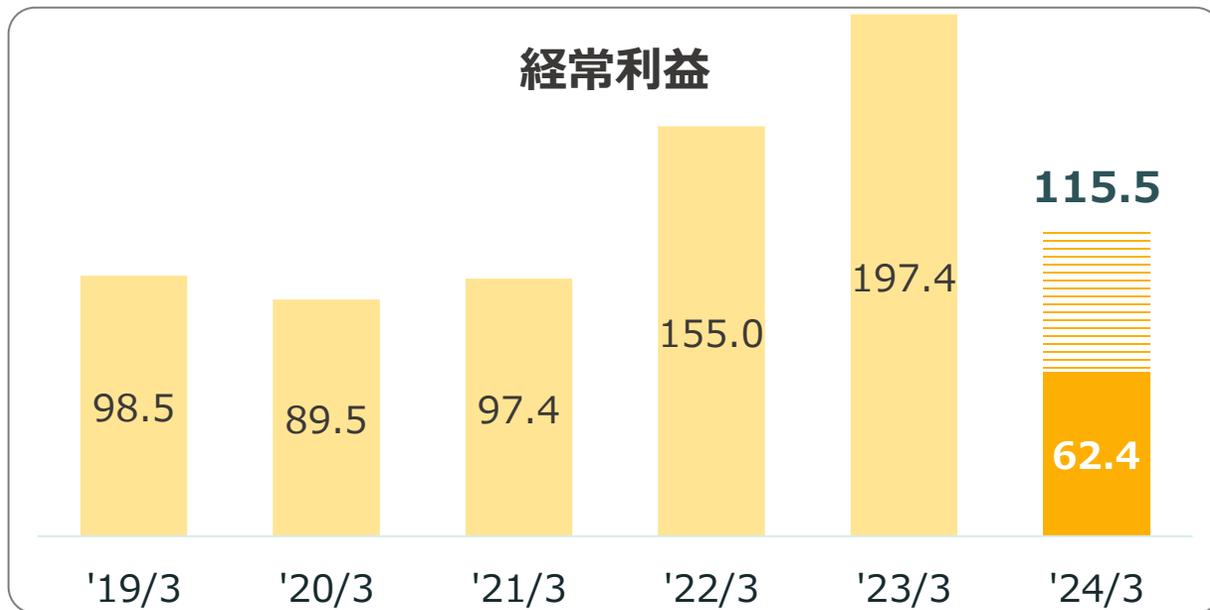
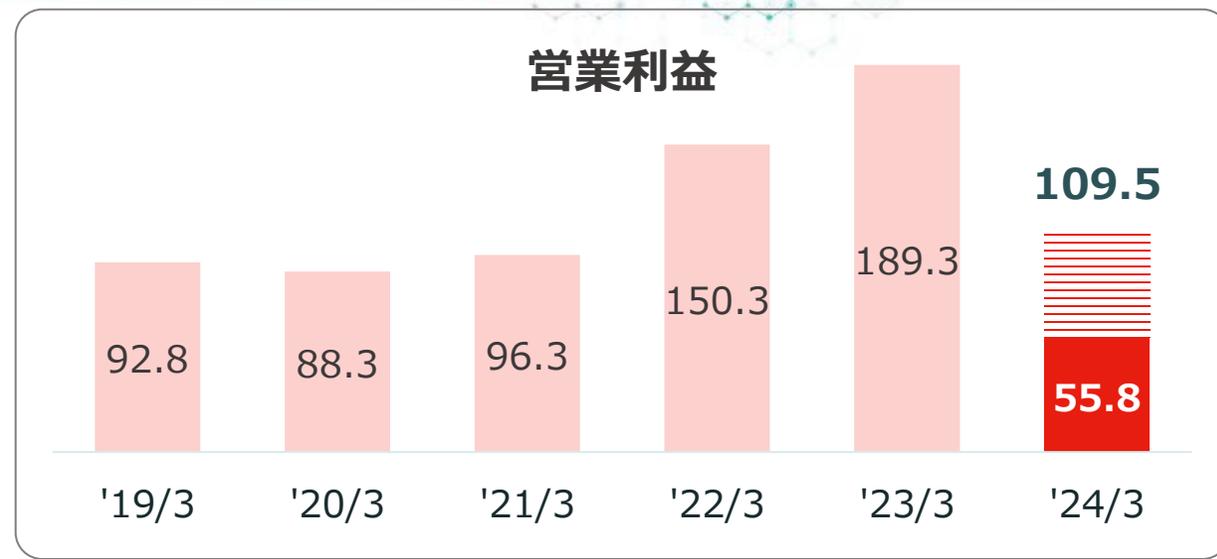
2024年3月期計画 当期純利益増減要因



(単位：億円)



業績推移および予想



(単位：億円)

サステナビリティ報告書

2023年8月

2022年度報告書公開

事業の成長とともに持続可能な社会の実現に向けて取り組む当社の活動状況を、毎年更新し開示。今年度より英文報告書も開示。(10月)



働きやすい快適な環境

2023年9月

大阪本社移転

全部署がワンフロアで勤務できるオープンな空間。

部門を超えた、活発なコミュニケーションの機会を促し、アイデアやイノベーションの創出を目指す。文書管理システム導入・ペーパーレス化の徹底により業務を効率化。



「JPX日経インデックス400」 構成銘柄選定

2023年8月



2023年度の構成銘柄

資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成。

次世代に向けて情報発信

2023年8月

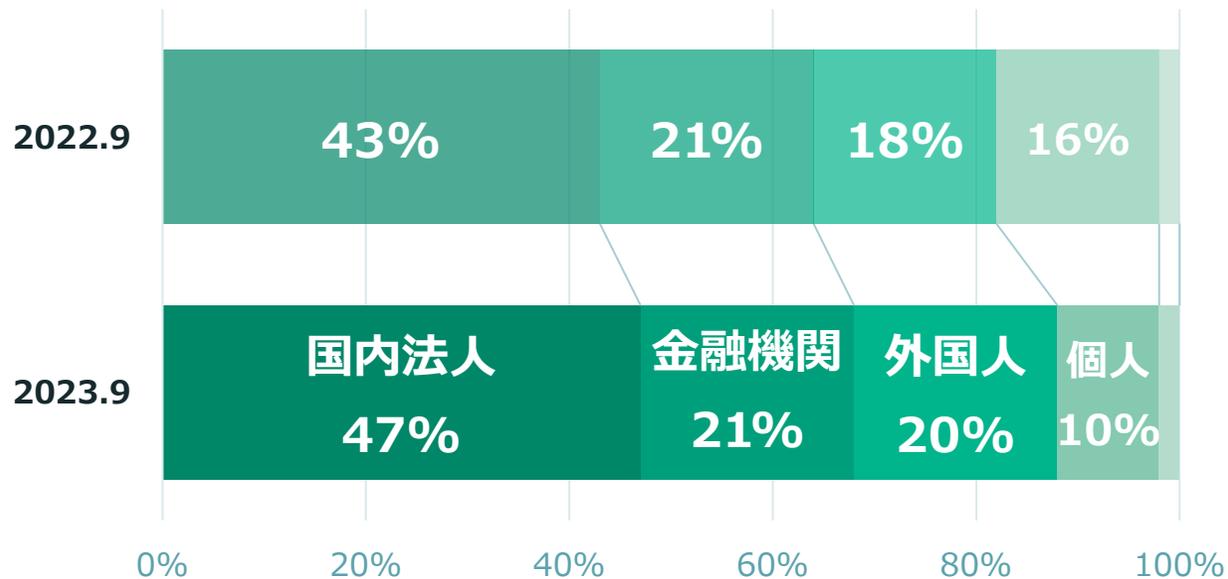
親子で楽しむ科学実験教室

株式会社オレンジページ協力の下開催。実験を通じ、様々な酸味料や食品添加物の特性を紹介。酸味料が食の安全を守り、食生活を豊かにし、フードロスに貢献していることを知ってもらう機会を提供。





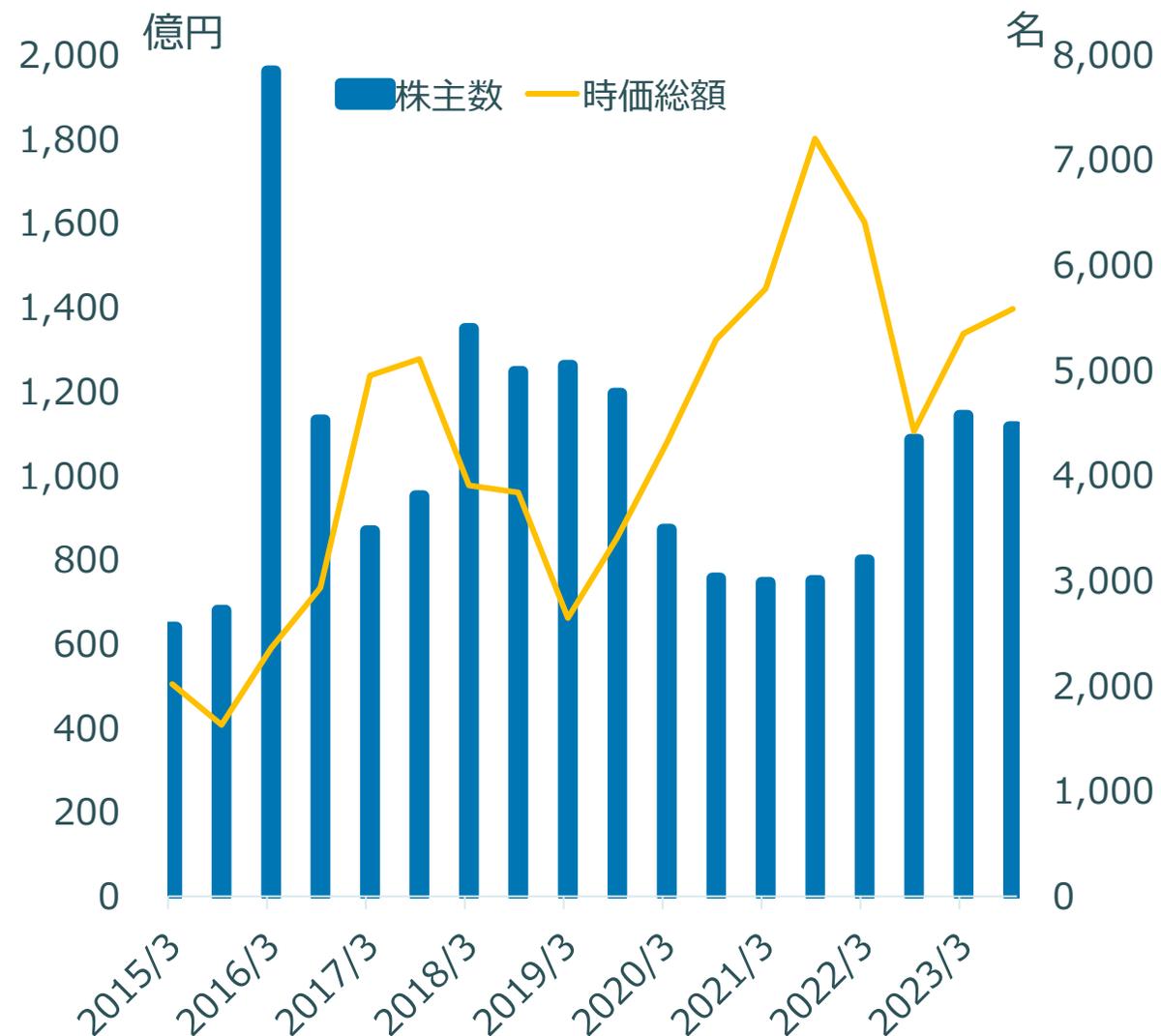
■ 株主構成

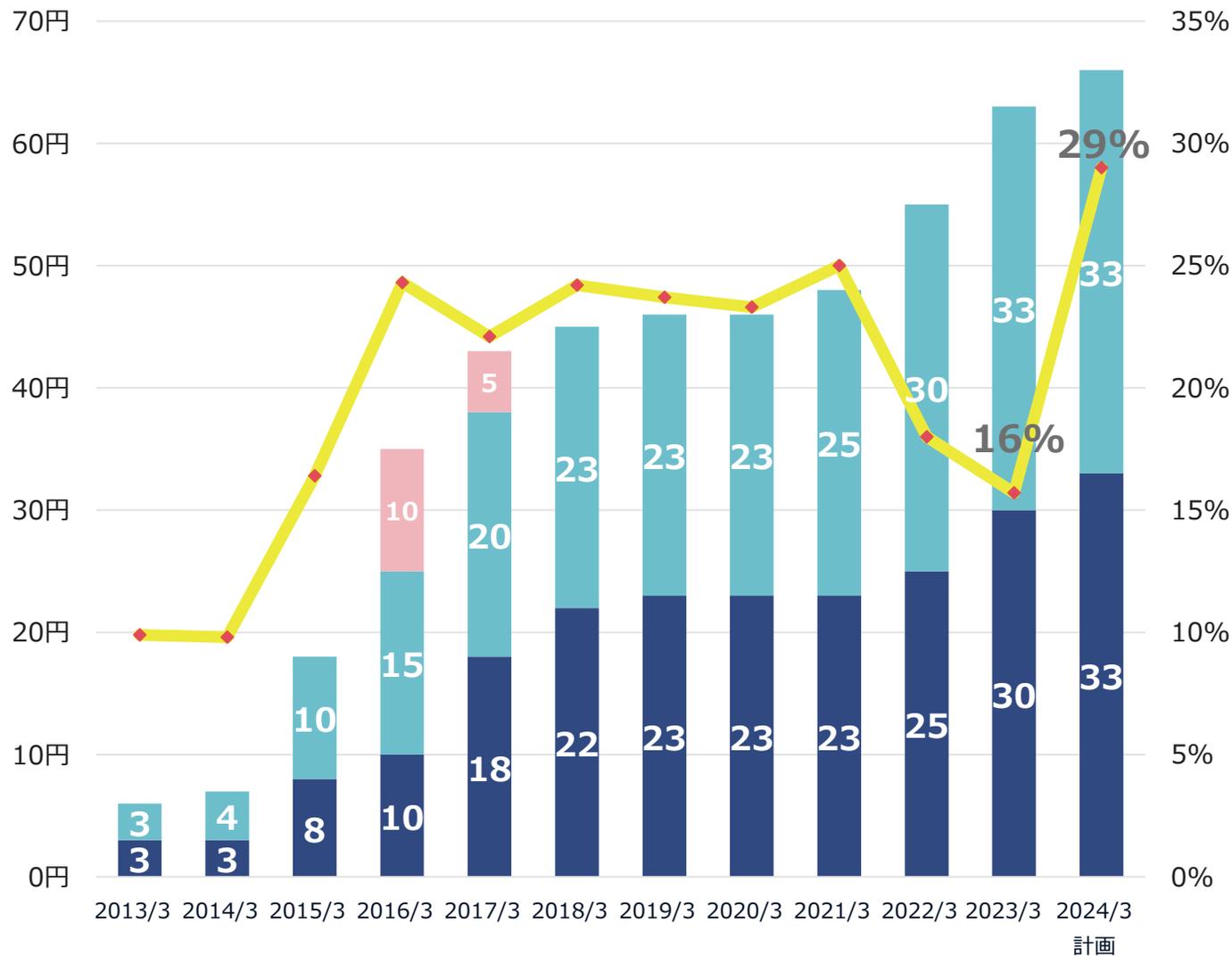


■ 政策保有株式の状況(上場株式)



■ 時価総額・株主数





増配継続予定

■ 2024年3月期予想

➔ 普通配当金 **66円**

(中間配当**33円**・期末配当**33円**)

■ 2023年3月期：増配

➔ 普通配当金 **63円**

(中間配当**30円**・期末配当**33円**)

業績や事業計画、財務体質等を総合的に勘案した
安定的かつ継続的な配当実施

■ 中間配当 ■ 期末配当 ■ 記念配当 ● 配当性向

本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。